

阿南工業高等専門学校		開講年度	平成26年度 (2014年度)	授業科目	基礎数学 1
科目基礎情報					
科目番号	0101		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 4	
開設学科	一般教養		対象学年	1	
開設期	通年		週時間数	4	
教科書/教材	「高等学校 数学Ⅰ、数学Ⅱ」(数研出版) / 「新課程チャート式基礎と演習 数学Ⅰ+A、Ⅱ+B」、 「はぎ取り式練習ドリル 数学Ⅰ、数学Ⅱ」(数研出版)				
担当教員	田上 隆徳				
到達目標					
1. 多項式の基本的な計算ができる。 2. 2次関数について理解し、具体的な事象の考察や2次不等式を解くことなどに活用できる。 3. 三角比の意味について理解し、具体的な事象の考察に活用できる。 4. 三角関数について理解し、その計算ができる。					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	和や積の組み合わせを工夫して、式の展開や因数分解を行うことができる。	多項式の基本的な計算ができる。	多項式の基本的な計算ができない。		
評価項目2	具体的な事象に対し、2次方程式や2次不等式を用いて、問題を解決することができる。	2次関数について理解し、2次方程式や2次不等式を解くことができる。	基本的な2次方程式や2次不等式を解くことができない。		
評価項目3	具体的な事象に対し、三角比および正弦定理・余弦定理を用いて、問題を解決することができる。	三角比の意味について理解し、基本的な三角比および正弦定理・余弦定理を用いた計算ができる。	基本的な三角比を求めることができない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	数学は工業高専において根幹となる科目である。基礎数学1では、方程式と不等式、2次関数、図形と計量及び三角関数について基礎的な知識と技能を習得する。また、それらを的確に活用する能力を養い、数学的な見方や考え方を身に付ける。				
授業の進め方・方法					
注意点	1. 授業に集中し、効率的に学習する方法を確立する。 2. 数学力の定着には、日々の予習復習が必要不可欠である。積極的に取り組むこと。 3. 定期試験と数学実力試験は同等に扱う。また提出物および小テストの状況も重視される。 4. 提出物の期限は厳守すること。				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	基礎学力試験		
		2週	方程式と不等式	整式の加法、減法、乗法ができる。	
		3週	方程式と不等式	整式の加法、減法、乗法ができる。	
		4週	方程式と不等式	因数分解ができる。	
		5週	方程式と不等式	因数分解ができる。	
		6週	方程式と不等式	根号を含む計算ができる。	
		7週	方程式と不等式	根号を含む計算ができる。	
		8週	方程式と不等式	1次不等式を解くことができる。	
	2ndQ	9週	前期中間試験		
		10週	2次関数	2次関数の最大・最小を求めることができる。	
		11週	2次関数	2次関数の最大・最小を求めることができる。	
		12週	2次関数	2次方程式を解くことができる。	
		13週	2次関数	2次方程式を解くことができる。	
		14週	2次関数	2次不等式を解くことができる。	
		15週	2次関数	2次不等式を解くことができる。	
		16週			
後期	3rdQ	1週	図形と計量	正弦・余弦・正接およびその相互関係を理解している。	
		2週	図形と計量	正弦・余弦・正接およびその相互関係を理解している。	
		3週	図形と計量	正弦・余弦・正接およびその相互関係を理解している。	
		4週	図形と計量	正弦定理・余弦定理を理解している。	
		5週	図形と計量	正弦定理・余弦定理を理解している。	
		6週	図形と計量	正弦定理・余弦定理を理解している。	
		7週	図形と計量	三角比を用いて三角形の面積を求めることができる。	
		8週	図形と計量	三角比を用いて三角形の面積を求めることができる。	
	4thQ	9週	後期中間試験		
		10週	三角関数	弧度法および一般角の三角関数について理解している。	
		11週	三角関数	弧度法および一般角の三角関数について理解している。	

	12週	三角関数	三角関数の性質とグラフについて理解している。
	13週	三角関数	三角関数の性質とグラフについて理解している。
	14週	三角関数	加法定理を理解している。
	15週	三角関数	加法定理を理解している。
	16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	90	0	0	0	10	0	100
基礎的能力	90	0	0	0	10	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

阿南工業高等専門学校		開講年度	平成26年度 (2014年度)	授業科目	数学A
科目基礎情報					
科目番号	0102		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般教養		対象学年	1	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	「高等学校 数学A、数学Ⅰ、数学Ⅱ」(数研出版) / 「新課程チャート式基礎と演習 数学Ⅰ+A、Ⅱ+B」、 「はぎ取り式練習ドリル 数学A、Ⅰ、Ⅱ」(数研出版)				
担当教員	田上 隆徳				
到達目標					
1. 場合の数を、順列や組み合わせと関連して理解し整理できる。 2. 確率を集合との関係でとらえて計算できる。 3. 指数関数及び対数関数について理解し、その計算ができる。 4. 命題という概念を理解し、命題の真偽が判定できる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	場合の数、順列や組合せのやや複雑な計算ができる。		場合の数、順列や組合せの基本的な計算ができる。		場合の数、順列や組合せの計算ができる。
評価項目2	具体的な事象に対し、確率を集合との関係で理解することができ、やや複雑な計算ができる。		確率を集合との関係で理解することができ、基本的な計算ができる。		確率を集合との関係で理解することができない。または、基本的な計算ができない。
評価項目3	指数関数及び対数関数について理解し、やや複雑な計算ができる。		指数関数及び対数関数について理解し、その基本的な計算ができる。		指数関数及び対数関数について理解できない。または、基本的な計算ができない。
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	数学は工業高専において根幹となる科目である。集合や命題の学習を通して論理的な思考を身につけ、場合の数や確率を通して、日常の中に現れる数学を学ぶ。また、指数関数・対数関数について学び、事象を数学的に考察し処理する能力とそれらを活用する態度を育てる。				
授業の進め方・方法					
注意点	1. 授業に集中し、効率的に学習する方法を確立すること。 2. 数学力の定着には、日々の予習復習が必要不可欠である。積極的に取り組むこと。 3. 定期試験と数学実力試験は同等に扱う。また提出物および小テストの状況も重視される。 4. 提出物の期限は厳守すること。				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	集合	集合について理解している。	
		2週	集合	補集合とド・モルガンの法則を理解している。	
		3週	場合の数と確率	集合の要素と個数を理解している。	
		4週	場合の数と確率	集合の要素と個数を理解している。	
		5週	場合の数と確率	順列の計算ができる。	
		6週	場合の数と確率	順列の計算ができる。	
		7週	場合の数と確率	組合せの計算ができる。	
		8週	前期中間試験		
	2ndQ	9週	場合の数と確率	組合せの計算ができる。	
		10週	場合の数と確率	確率の基本性質を理解している。	
		11週	場合の数と確率	確率の基本性質を理解している。	
		12週	場合の数と確率	独立な試行の確率を求めることができる。	
		13週	場合の数と確率	独立な試行の確率を求めることができる。	
		14週	場合の数と確率	反復試行の確率を求めることができる。	
		15週	場合の数と確率	反復試行の確率を求めることができる。	
		16週			
後期	3rdQ	1週	指数関数・対数関数	指数法則を理解している。	
		2週	指数関数・対数関数	累乗根の計算ができる。	
		3週	指数関数・対数関数	累乗根の計算ができる。	
		4週	指数関数・対数関数	指数の拡張に関する計算ができる。	
		5週	指数関数・対数関数	指数の拡張に関する計算ができる。	
		6週	指数関数・対数関数	指数関数とそのグラフの関係を理解している。	
		7週	指数関数・対数関数	指数関数とそのグラフの関係を理解している。	
		8週	後期中間試験		
	4thQ	9週	指数関数・対数関数	対数とその性質を理解している。	
		10週	指数関数・対数関数	対数とその性質を理解している。	
		11週	指数関数・対数関数	対数関数とそのグラフの関係を理解している。	
		12週	指数関数・対数関数	対数関数とそのグラフの関係を理解している。	
		13週	論証	命題と条件について理解している。	
		14週	論証	論証について理解している。	
		15週	論証	論証について理解している。	

		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標		到達レベル	授業週	
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	90	0	0	0	10	0	100
基礎的能力	90	0	0	0	10	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

阿南工業高等専門学校		開講年度	平成26年度 (2014年度)	授業科目	英語 1
科目基礎情報					
科目番号	0103		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般教養		対象学年	1	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	POLESTAR English Communication I, 数研出版, 同準処ナビゲーションノート, ワークブック Standard フェイバリット英単語・熟語<テーマ別>コーパス 3000, 東京書籍/英語Aの文法参考書				
担当教員	谷中 俊裕				
到達目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 予習復習を含む着実な英語の学習習慣を身に付ける。 2. 教科書の読み物を, 100語~200語のパートごとに, 重要語句と重要文法事項を意識しながら正確に理解できる。 3. 教科書の読み物をややゆっくりめの音声に合わせて英語らしい発音でシャドウイングできる。 4. 教科書の読み物で学習した重要語句と語彙集を用いながら, 数文の平易な英文で自分の意見を書ける。 5. 教科書で学習した題材について, 学習した語彙を用いながら, 数文の平易な英文で自分の意見を書ける。 					
ルーブリック					
	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル		
到達目標1	予習復習に加え, 自分なりの目標も決めて英語学習を着実に進める習慣が身に付いている。	予習復習中心に着実な英語の学習習慣が身に付いている。	英語学習は予習復習も十分にできなかった。		
到達目標2	教科書の読み物の英文で学んだ重要語句・重要文法事項を他の英文の理解にも応用できる。	教科書の読み物の英文を, パートごとに重要語句・重要文法事項を含めば理解できた。	教科書の読み物の英文について, 理解できないところが多く残っている。		
到達目標3	教科書の読み物をややゆっくりめのスピードの音声に合わせて十分英語らしい発音でシャドウイングできる。	教科書の読み物をややゆっくりめの音声に合わせて英語として通じるレベルの発音でシャドウイングできる。	教科書の読み物をややゆっくりめのスピードでもシャドウイングできない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	教科書に収録されているさまざまな題材の読み物の読解演習を通して, 正確な読解力と重要語句や重要文法事項を習得する。同時に, 教科書の音読を通して英語の正確な発音と自然なリズムを身に付ける。さらに, 学習した題材について, 習得した語彙も用いながら自分の意見を平易な英文で書く練習を通して, 英作文力を高める。				
授業の進め方・方法					
注意点	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業には必ず英和辞典(電子辞書可)を持参すること。 2. オリエンテーションで支持するやり方で, 十分予習復習と語彙学習を行うこと。 3. 特別課題として, 長期休暇中の宿題を課します。 4. 積極的に英語の資格, 数文の平易な英文で自分の意見を書ける。 				
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	オリエンテーション	学習方法についての理解	
		2週	Lesson1~Lesson3	到達目標の1~5について, 全Lessonを題材に学習します。	
		3週	Lesson1~Lesson3	到達目標の1~5について, 全Lessonを題材に学習します。	
		4週	Lesson1~Lesson3	到達目標の1~5について, 全Lessonを題材に学習します。	
		5週	Lesson1~Lesson3	到達目標の1~5について, 全Lessonを題材に学習します。	
		6週	Lesson1~Lesson3	到達目標の1~5について, 全Lessonを題材に学習します。	
		7週	Lesson1~Lesson3	到達目標の1~5について, 全Lessonを題材に学習します。	
		8週	[前期中間試験]		
	2ndQ	9週	Lesson3~Lesson5	到達目標の1~5について, 全Lessonを題材に学習します。	
		10週	Lesson3~Lesson5	到達目標の1~5について, 全Lessonを題材に学習します。	
		11週	Lesson3~Lesson5	到達目標の1~5について, 全Lessonを題材に学習します。	
		12週	Lesson3~Lesson5	到達目標の1~5について, 全Lessonを題材に学習します。	
		13週	Lesson3~Lesson5	到達目標の1~5について, 全Lessonを題材に学習します。	
		14週	Lesson3~Lesson5	到達目標の1~5について, 全Lessonを題材に学習します。	
		15週	[前期末試験]		
		16週			
後期	3rdQ	1週	Lesson6~Lesson8	到達目標の1~5について, 全Lessonを題材に学習します。	
		2週	Lesson6~Lesson8	到達目標の1~5について, 全Lessonを題材に学習します。	
		3週	Lesson6~Lesson8	到達目標の1~5について, 全Lessonを題材に学習します。	

		4週	Lesson6~Lesson8	到達目標の1~5について、全Lessonを題材に学習します。
		5週	Lesson6~Lesson8	到達目標の1~5について、全Lessonを題材に学習します。
		6週	Lesson6~Lesson8	到達目標の1~5について、全Lessonを題材に学習します。
		7週	Lesson6~Lesson8	到達目標の1~5について、全Lessonを題材に学習します。
		8週	[後期中間試験]	
	4thQ	9週	Lesson9~Lesson10	到達目標の1~5について、全Lessonを題材に学習します。
		10週	Lesson9~Lesson10	到達目標の1~5について、全Lessonを題材に学習します。
		11週	Lesson9~Lesson10	到達目標の1~5について、全Lessonを題材に学習します。
		12週	Lesson9~Lesson10	到達目標の1~5について、全Lessonを題材に学習します。
		13週	Lesson9~Lesson10	到達目標の1~5について、全Lessonを題材に学習します。
		14週	Lesson9~Lesson10	到達目標の1~5について、全Lessonを題材に学習します。
		15週	[後期末試験]	
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	0	0	0	25	15	100
基礎的能力	60	0	0	0	25	15	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

阿南工業高等専門学校		開講年度	平成26年度 (2014年度)	授業科目	保健		
科目基礎情報							
科目番号	0104		科目区分	一般 / 選択			
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1			
開設学科	一般教養		対象学年	1			
開設期	前期		週時間数	2			
教科書/教材	現代高等保健体育、大修館書店 /なし						
担当教員	佐竹 昌之						
到達目標							
1. 生活習慣病や感染症、薬物乱用、交通安全などの現代の健康問題とその対策について説明できる。 2. 思春期の健康に関すること、健康を支えている保健・医療の仕組みについて説明し活用できる。 3. 環境汚染による健康被害を理解し、環境保護について説明できる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安				
評価項目1		生活習慣病や感染症、薬物乱用、交通安全などの現代の健康問題とその対策について説明できる。					
評価項目2		思春期の健康に関すること、健康を支えている保健・医療の仕組みについて説明し活用できる。					
評価項目3		環境汚染による健康被害を理解し、環境保護について説明できる。					
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	人間が成長発達しながら生きていくことを理解し、生活習慣病の知識を身につけ生涯を通じて健康を保持増進できる能力を養う。						
授業の進め方・方法							
注意点	生涯を通じて健康生活を保持促進するためには、健康についての知識が欠かせません。健康についての知識を高め、現代社会を生き抜く知恵を学んでください。						
授業計画							
	週	授業内容	週ごとの到達目標				
前期	1stQ	1週	生活習慣病とその予防	生活習慣病について説明でき、より良い生活習慣の重要性を認識できる。			
		2週	食事・運動・休養と健康	健康的な食生活、健康のための運動、より良い休養について説明できる。			
		3週	喫煙・飲酒と健康	喫煙や飲酒を他人事ではなく自分たちに			
		4週	薬物乱用と健康	薬物乱用が心身の健康に及ぼす悪影響を説明できる。			
		5週	感染症とその予防	性感染症やエイズについて基礎知識を学び予防対策について説明できる。			
		6週	交通事故の現状とその要因	交通事故の現状と要因について説明できる。			
		7週	応急手当と心肺蘇生法	応急手当や心肺蘇生法、熱中症対策についての基本的な手順を説明できる。			
		8週	中間試験				
	2ndQ	9週	思春期と健康	思春期の特徴が説明でき、異性を尊重する態度の必要性について説明できる。			
		10週	結婚生活と健康	健康的な結婚生活、受精・妊娠・出産の過程を理解し、説明できる。			
		11週	家族計画と人工妊娠中絶	家屋計画の意義や方法について理解し、説明できる。			
		12週	医療制度・医療品と健康	さまざまな医療機関や医療費が支払われる仕組みについて説明できる。			
		13週	環境汚染と健康	大気汚染、水質汚濁、土壌汚染と健康被害について説明できる。			
		14週	環境衛生活動のしくみ	ゴミ処理と上下水道の整備の現状を理解し、問題点や対策について説明できる。			
		15週	食品衛生活動のしくみ	食品の安全を守るために行政や生産者が果たす役割について説明できる。			
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	20	0	100
基礎的能力	80	0	0	0	20	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

阿南工業高等専門学校		開講年度	平成26年度 (2014年度)	授業科目	体育
科目基礎情報					
科目番号	0105		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般教養		対象学年	1	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	なし/なし				
担当教員	新井 修				
到達目標					
1. 互い協力し合い、主体的に運動に参加できる。 2. 自己の能力に応じて、運動の技能や体力を身につけることができる 3. 運動・活動中は安全に留意して行動できる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	自己及び、仲間の取るべき行動を判断し、適切に働きかけながら準備や活動に参加できる。		自己の取るべき行動を判断し、他人と互いに協力しながら準備や活動に参加できる。		自己の取るべき行動が判断できない。または他人と協力する姿勢がみられず、活動に参加できない。
評価項目2	自己の能力を理解し、適切なプログラムを作成して運動の技能や体力を身につける事ができる。		教員が指示したプログラムに従い、運動の技能や体力を身につける事ができる。		教員の指示に従わず、運動の技能や体力を身につける事ができない。
評価項目3	活動中、自己のみならず仲間の安全に留意し、必要に応じて危険を回避する行動をとる事ができる。		活動中、自己の安全に留意し、必要に応じて危険を回避する行動をとる事ができる。		活動中、安全に留意して行動できない。
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	運動を行うことにより、運動することの楽しさや喜びの実感、運動に必要な技能の習得及び、体力の向上を図る。あわせて自ら意欲的に運動に取り組む姿勢や、生涯に渡って運動に親しむ態度を育てる。				
授業の進め方・方法	特に本授業では、運動自体を楽しみながら、各運動に必要な技能の習得及び、体力の向上を図ることに重点を置く。				
注意点	普段から健康管理を心がけ、風邪などにより授業を見学・欠席することの無いよう気をつけてください。 学校指定の体操服で活動して下さい。 天候等、やむを得ない事情により、実施種目は変更されることがあります。 体育大会は授業時数に含まれますので、欠席しないようにして下さい。				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	バレーボール	バレーボールのルールを理解し説明できる。	
		2週	バレーボール	バレーボールのルールを理解し説明できる。	
		3週	バレーボール	サーブ、パス、スパイク等の個人技能を習得する。	
		4週	バレーボール	サーブ、パス、スパイク等の個人技能を習得する。	
		5週	バレーボール	互いに協力し、ゲームを実践できる。	
		6週	バレーボール	互いに協力し、ゲームを実践できる。	
		7週	バスケットボール	バスケットボールのルールを理解し説明できる。	
		8週	バスケットボール	バスケットボールのルールを理解し説明できる。	
	2ndQ	9週	バスケットボール	パス、ドリブル、シュート等の個人技能を習得する。	
		10週	バスケットボール	パス、ドリブル、シュート等の個人技能を習得する。	
		11週	バスケットボール	互いに協力し、ゲームを実践できる。	
		12週	バスケットボール	互いに協力し、ゲームを実践できる。	
		13週	体育大会	参加する種目で、仲間と協力してゲームを実践できる。	
		14週	体育大会	参加する種目で、仲間と協力してゲームを実践できる。	
		15週	体育大会	参加する種目で、仲間と協力してゲームを実践できる。	
		16週	体育大会	参加する種目で、仲間と協力してゲームを実践できる。	
後期	3rdQ	1週	バドミントン	バドミンントンのルールを理解し説明できる。	
		2週	バドミントン	バドミンントンのルールを理解し説明できる。	
		3週	バドミントン	サーブ、ストローク、スマッシュ等の個人技能を習得する。	
		4週	バドミントン	サーブ、ストローク、スマッシュ等の個人技能を習得する。	
		5週	バドミントン	互いに協力し、ゲームを実践できる。	
		6週	バドミントン	互いに協力し、ゲームを実践できる。	
		7週	卓球	卓球のルールを理解し説明できる。	
		8週	卓球	卓球のルールを理解し説明できる。	
	4thQ	9週	卓球	サーブ、レシーブ、スマッシュ等の個人技能を習得する。	
		10週	卓球	サーブ、レシーブ、スマッシュ等の個人技能を習得する。	
		11週	卓球	互いに協力し、ゲームを実践できる。	

	12週	卓球	互いに協力し、ゲームを実践できる。
	13週	体育大会	参加する種目で、仲間と協力してゲームを実践できる。
	14週	体育大会	参加する種目で、仲間と協力してゲームを実践できる。
	15週	体育大会	参加する種目で、仲間と協力してゲームを実践できる。
	16週	体育大会	参加する種目で、仲間と協力してゲームを実践できる。

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	定期試験	小テスト	レポート・課題	発表	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	100	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	100	100

阿南工業高等専門学校		開講年度	平成26年度 (2014年度)	授業科目	美術・デザイン
科目基礎情報					
科目番号	0106		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般教養		対象学年	1	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	「美術1」 著者:野田弘志,発行所:光村/デザイン概論(ダヴィット社)				
担当教員	上月 佳代				
到達目標					
1. 観察力、主題の表現、方法を工夫することができる。 2. 発想、構想、着想の表現ができる。 3. 材料、用具、技法の理解ができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	観察力、主題の表現、方法を工夫し、独自の世界観を作り出すことができる。		観察力、主題の表現、方法を工夫することができる。		観察力、主題の表現、方法を工夫することができない。
評価項目2	発想、構想、着想の表現ができ、独自の世界観を作り出すことができる。		発想、構想、着想の表現ができる。		発想、構想、着想の表現ができない。
評価項目3	材料、用具、技法の理解ができ、的確に使うことができる。		材料、用具、技法の理解ができる。		材料、用具、技法の理解ができない。
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	美術・デザインの専門分野で、創造活動を通して、人間、社会、自然で美的体験を豊かにし、美意識を高め、感性やアイデアを表現する。また情報社会の中で、生活や文化、環境を施行しながら工学デザインへの一歩として理解し、個性ある能力を高める。				
授業の進め方・方法					
注意点	美術は自己をしっかりと見つめ、自分を表現する。身近な生活の中にも造形に興味を持ち、楽しむ。与えられた課題は最後まで取り組み、根気や忍耐力を発揮すること				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	美術・デザインの概論	美術・デザインの意義を理解して美術の取り組む心構えができる。	
		2週	美術・デザインの概論	美術・デザインの意義を理解して美術の取り組む心構えができる。	
		3週	色彩(色相環・三属性)	色彩(色相環・三属性)を理解することができる。	
		4週	色彩(色相環・三属性)	色彩(色相環・三属性)を理解することができる。	
		5週	色彩(色相環・三属性)	色彩(色相環・三属性)を理解することができる。	
		6週	ポスターデザイン	ポスターデザインの目的を理解し、条件を把握し、発想し、色彩選択してポスターをデザインすることができる。	
		7週	ポスターデザイン	ポスターデザインの目的を理解し、条件を把握し、発想し、色彩選択してポスターをデザインすることができる。	
		8週	ポスターデザイン	ポスターデザインの目的を理解し、条件を把握し、発想し、色彩選択してポスターをデザインすることができる。	
	2ndQ	9週	ポスターデザイン	ポスターデザインの目的を理解し、条件を把握し、発想し、色彩選択してポスターをデザインすることができる。	
		10週	平面構成	バランスのとれた平面構成をし、調和のとれた色彩構成をすることができる。	
		11週	平面構成	バランスのとれた平面構成をし、調和のとれた色彩構成をすることができる。	
		12週	平面構成	バランスのとれた平面構成をし、調和のとれた色彩構成をすることができる。	
		13週	平面構成	バランスのとれた平面構成をし、調和のとれた色彩構成をすることができる。	
		14週	平面構成	バランスのとれた平面構成をし、調和のとれた色彩構成をすることができる。	
		15週	平面構成	バランスのとれた平面構成をし、調和のとれた色彩構成をすることができる。	
		16週	平面構成	バランスのとれた平面構成をし、調和のとれた色彩構成をすることができる。	
後期	3rdQ	1週	平面構成	バランスのとれた平面構成をし、調和のとれた色彩構成をすることができる。	
		2週	工業デザイン(立体)	機能的な形と美しさの調和を考えて、画面構成・着色することができる。	
		3週	工業デザイン(立体)	機能的な形と美しさの調和を考えて、画面構成・着色することができる。	
		4週	工業デザイン(立体)	機能的な形と美しさの調和を考えて、画面構成・着色することができる。	

4thQ	5週	工業デザイン(立体)	機能的な形と美しさの調和を考えて、画面構成・着色することができる。
	6週	鉛筆によるデッサン	対象を観察して、それを素描、クロッキー、スケッチで表現できる。
	7週	鉛筆によるデッサン	対象を観察して、それを素描、クロッキー、スケッチで表現できる。
	8週	鉛筆によるデッサン	対象を観察して、それを素描、クロッキー、スケッチで表現できる。
	9週	鉛筆によるデッサン	対象を観察して、それを素描、クロッキー、スケッチで表現できる。
	10週	鉛筆によるデッサン	対象を観察して、それを素描、クロッキー、スケッチで表現できる。
	11週	静物画	静物を観察し、どう表現するかを考えて、画面構図・着色することができる。
	12週	静物画	静物を観察し、どう表現するかを考えて、画面構図・着色することができる。
	13週	静物画	静物を観察し、どう表現するかを考えて、画面構図・着色することができる。
	14週	静物画	静物を観察し、どう表現するかを考えて、画面構図・着色することができる。
	15週	美術・デザインのまとめ	美術・デザインのまとめとして、絵画などを鑑賞して作者の意図が理解できる。
	16週	美術・デザインのまとめ	美術・デザインのまとめとして、絵画などを鑑賞して作者の意図が理解できる。

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
評価割合						
	定期試験	小テスト	レポート・課題	発表	その他	合計
総合評価割合	0	0	70	0	30	100
基礎的能力	0	0	70	0	30	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0

阿南工業高等専門学校		開講年度	平成26年度 (2014年度)	授業科目	日本語総合
科目基礎情報					
科目番号	0107		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般教養		対象学年	1	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	高専日本語アビリティ I (山田印刷) / 級別漢字学習7級~2級 (東京法令出版)				
担当教員	錦織 浩文				
到達目標					
1. 漢文に触れ、中国文化との関係を含む日本文化への理解を深め、親しむことができる。 2. 日本語で情報を収集・選択・構成し、論理的にコミュニケーションをとることができる。					
ループリック					
	理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル
到達目標1	漢文についてリズムや韻を味わい、大意を踏まえて暗唱することができる。		漢文についてリズムや韻を味わい、暗唱することができる。		漢文についてリズムや韻を味わい、大意を踏まえて暗唱することに欠ける。
到達目標2	表現スキルを効果的に用い、論理構成を意識した文章表現、及び発表ができる。		表現スキルを用い、論理構成を意識した文章表現、及び発表ができる。		表現スキルを用い、論理構成を意識した文章表現、及び発表に欠ける。
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	日本語の表現に関する基礎知識を理解し、論理的なコミュニケーション能力を養うことを目的とする。授業内容は、文章表現に関する学習・練習を基本とする。また、表現力・理解力を育むために漢字学習を行う。				
授業の進め方・方法					
注意点	毎時間の冒頭に「読書の時間」を設けるので、各自で本を用意すること(漫画、雑誌、テキストを除く)。				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガイダンス	シラバスにより、到達目標、評価割合、達成度基準等を理解する。	
		2週	文書作成(履歴書)	適切な言葉遣い、構成法を用いて履歴書を作成することができる。	
		3週	文書作成(履歴書)	適切な言葉遣い、構成法を用いて履歴書を作成することができる。	
		4週	文書作成(履歴書)	適切な言葉遣い、構成法を用いて履歴書を作成することができる。	
		5週	敬語	尊敬語、謙譲語、丁寧語を用いて、適切な敬語を使用することができる。	
		6週	敬語	尊敬語、謙譲語、丁寧語を用いて、適切な敬語を使用することができる。	
		7週	敬語	尊敬語、謙譲語、丁寧語を用いて、適切な敬語を使用することができる。	
		8週	[前期中間試験]		
	2ndQ	9週	詩歌作成(俳句)	俳句の形式に則り、俳句を作成することができる。	
		10週	詩歌作成(俳句)	俳句の形式に則り、俳句を作成することができる。	
		11週	文書作成(通信文)	通信文の形式に則り、通信文を作成することができる。	
		12週	文書作成(通信文)	通信文の形式に則り、通信文を作成することができる。	
		13週	文書作成(通信文)	通信文の形式に則り、通信文を作成することができる。	
		14週	詩歌作成(短歌)	短歌の形式に則り、短歌を作成することができる。	
		15週	詩歌作成(短歌)	短歌の形式に則り、短歌を作成することができる。	
		16週	[前期期末試験]		
後期	3rdQ	1週	発表(POPを用いた本の紹介)	POPを作成し、本の魅力を発表することができる。	
		2週	発表(POPを用いた本の紹介)	POPを作成し、本の魅力を発表することができる。	
		3週	発表(POPを用いた本の紹介)	POPを作成し、本の魅力を発表することができる。	
		4週	発表(POPを用いた本の紹介)	POPを作成し、本の魅力を発表することができる。	
		5週	文章作成(小論文)	問題提起、予想反論と反証を含む四段構成の小論文を作成することができる。	
		6週	文章作成(小論文)	問題提起、予想反論と反証を含む四段構成の小論文を作成することができる。	
		7週	文章作成(小論文)	問題提起、予想反論と反証を含む四段構成の小論文を作成することができる。	
		8週	[後期中間試験]		
	4thQ	9週	文章作成(超短文)	テーマに沿った効果的な短文を作成することができる。	
		10週	文章作成(超短文)	テーマに沿った効果的な短文を作成することができる。	
		11週	文章作成(超短文)	テーマに沿った効果的な短文を作成することができる。	

	12週	漢文（漢詩・格言）	漢文訓読の語順を味わい、暗唱することができる。
	13週	漢文（漢詩・格言）	漢文訓読の語順を味わい、暗唱することができる。
	14週	漢文（漢詩・格言）	漢文訓読の語順を味わい、暗唱することができる。
	15週	漢文（漢詩・格言）	漢文訓読の語順を味わい、暗唱することができる。
	16週	〔後期期末試験〕	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	定期試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	5	0	0	20	5	100
基礎的能力	70	5	0	0	20	5	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

阿南工業高等専門学校		開講年度	平成26年度 (2014年度)	授業科目	倫理
科目基礎情報					
科目番号	0108		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般教養		対象学年	1	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	高等学校倫理(第一学習社)/講義中に、適宜、紹介します。				
担当教員	藤居 岳人				
到達目標					
1. 日本とは異なった外国文化等、倫理・思想に関する基礎的な知識について説明できる。 2. 「ものづくり」に関する調査を通して、技術者と倫理との関係について基礎的な内容を説明できる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	倫理・思想に関する基礎的な知識について詳細に説明できる。	倫理・思想に関する基礎的な知識について、その概要を説明できる。	倫理・思想に関する基礎的な知識について、十分に説明できない。		
評価項目2	調査レポートの論旨が明快で、その内容について詳細に説明できる。	調査レポートがまとまっており、その内容について十分に説明できる。	調査レポートの論旨が明快でなく、その内容について十分に説明できない。		
評価項目3					
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	我々人間は社会の中で生活している関係上、自己実現を果たしながら、なおかつ他者とうまく折り合いをつけてゆく必要があります。自己と他者との間の、共感できる点や異質な点について自分なりに考えるところに「倫理」が生まれます。本講義では、自己と他者との関係について自分で考えるための材料を提供してゆきたいと思います。また、「ものづくり」に関する調査を通して、技術者としての基本的倫理観について考えてもらいたいと思います。				
授業の進め方・方法					
注意点	1.成績評価とも関連しますが、講義で述べたことについて定期試験・中間試験で確認する方針なので、「講義をしっかり聴く」ことを心がけてほしいと思います。 2.「ものづくり」に関する調査は、前期・後期にそれぞれ実施します(時期は適宜)。				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	「倫理」とは?	本来の「倫理」について、説明できる。	
		2週	ギリシアの思想	自然哲学者・ソクラテスらの倫理観について、その概要を説明できる。	
		3週	ギリシアの思想	自然哲学者・ソクラテスらの倫理観について、その概要を説明できる。	
		4週	ギリシアの思想	自然哲学者・ソクラテスらの倫理観について、その概要を説明できる。	
		5週	ギリシアの思想	プラトン・アリストテレスらの倫理観について、その概要を説明できる。	
		6週	ギリシアの思想	プラトン・アリストテレスらの倫理観について、その概要を説明できる。	
		7週	ギリシアの思想	プラトン・アリストテレスらの倫理観について、その概要を説明できる。	
		8週	【前期中間試験】		
	2ndQ	9週	キリスト教	ユダヤ教と現代史との関係について、その概要を説明できる。	
		10週	キリスト教	ユダヤ教と現代史との関係について、その概要を説明できる。	
		11週	キリスト教	イエスの倫理観の概要について説明できる。	
		12週	キリスト教	イエスの倫理観の概要について説明できる。	
		13週	「ものづくり」に関する調査1	調査を通して、技術者と倫理とについて、自分の考えをまとめて表現できる。	
		14週	「ものづくり」に関する調査1	調査を通して、技術者と倫理とについて、自分の考えをまとめて表現できる。	
		15週	「ものづくり」に関する調査1	調査を通して、技術者と倫理とについて、自分の考えをまとめて表現できる。	
		16週			
後期	3rdQ	1週	イスラム教	イスラム文化と現代の関係について、その概要を説明できる。	
		2週	イスラム教	イスラム教の倫理観について、その概要を説明できる。	
		3週	イスラム教	イスラム教の倫理観について、その概要を説明できる。	
		4週	インドの思想	インド人の思想の特徴について、その概要を説明できる。	
		5週	インドの思想	インド人の思想の特徴について、その概要を説明できる。	
		6週	インドの思想	ゴータマの思想について、その概要を説明できる。	
		7週	インドの思想	ゴータマの思想について、その概要を説明できる。	

4thQ	8週	【後期中間試験】	
	9週	中国の思想	儒家の倫理観（孔子の思想を含む）について、その概要を説明できる。
	10週	中国の思想	儒家の倫理観（孔子の思想を含む）について、その概要を説明できる。
	11週	中国の思想	道家の思想について、その概要を説明できる。
	12週	中国の思想	道家の思想について、その概要を説明できる。
	13週	「ものづくり」に関する調査2	調査を通して、技術者と倫理観とについて、自分の考えをまとめて表現できる。
	14週	「ものづくり」に関する調査2	調査を通して、技術者と倫理観とについて、自分の考えをまとめて表現できる。
	15週	「ものづくり」に関する調査2	調査を通して、技術者と倫理観とについて、自分の考えをまとめて表現できる。
16週			

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	0	30	0	100
基礎的能力	70	0	0	0	30	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

阿南工業高等専門学校		開講年度	平成26年度 (2014年度)	授業科目	理科総合
科目基礎情報					
科目番号	0109		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 4	
開設学科	一般教養		対象学年	1	
開設期	通年		週時間数	4	
教科書/教材	総合物理1 (数研)、科学基礎 (第一学習者)、地学基礎 (数研)、生物基礎 (啓林館)				
担当教員	平山 基				
到達目標					
<p>1. 工学、自然科学で対象とする量や単位について、基本的な取り扱いができる。</p> <p>2. 物理学の基礎事項について学び、ニュートンの3法則を用いた計算を行うことができる。</p> <p>3. 身の回りにおける物質やその変化・性質を理解するため、物質の構成などの基礎を理解できる。</p> <p>4. 地球の表層や内部構造について理解し、プレート境界での地震活動について説明できる。</p> <p>5. 生物の進化や多様性・生態系について理解するとともに、地球環境問題の原因や保全対策について説明できる。</p>					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	工学、自然科学で対象とする量や単位について、原理を理解し、基本的な取り扱いができる。	工学、自然科学で対象とする量や単位について、基本的な取り扱いができる。	工学、自然科学で対象とする量や単位について、基本的な取り扱いができない。		
評価項目2	物理学の基礎事項について説明でき、ニュートンの法則を用いた定式化および計算を行うことができる。	物理学の基礎事項について説明でき、ニュートンの法則を用いた初歩的な計算を行うことができる。	物理学の基礎事項について説明でき、ニュートンの法則を用いた初歩的な計算を行うことができない。		
評価項目3	身の回りにおける物質やその変化・性質を理解するため、物質の構成などを説明できる。	身の回りにおける物質やその変化・性質を理解するため、物質の構成などの基礎を理解できる。	身の回りにおける物質やその変化・性質を理解するため、物質の構成などの基礎を理解できない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	理科の総合的学習を通して、自然現象を系統的、論理的に考えていく能力を養い、広く自然現象を科学的に解明するための見方、考え方を身につける。物理・科学・生物・地学は工学を学ぶための極めて重要な基礎であり、多くの分野において科学技術の発展に欠かせない知識・素養を身につけることを目的とする。				
授業の進め方・方法					
注意点					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	有効数字	数値の取り扱い方を理解し、有効桁数を考慮した数値の計算ができる。	
		2週	有効数字	数値の取り扱い方を理解し、有効桁数を考慮した数値の計算ができる。	
		3週	数値と単位	数値の意味を理解し、種々の物理量に単位を付けることができる。	
		4週	物体の運動	物体の位置・速度・加速度の関係を定式化でき、それぞれの量を計算できる。	
		5週	物体の運動	物体の位置・速度・加速度の関係を定式化でき、それぞれの量を計算できる。	
		6週	物体の運動	物体の位置・速度・加速度の関係を定式化でき、それぞれの量を計算できる。	
		7週	運動の法則	運動方程式を立て、物体にかかる力や加速度を計算できる。	
		8週	運動の法則	運動方程式を立て、物体にかかる力や加速度を計算できる。	
	2ndQ	9週	運動の法則	運動方程式を立て、物体にかかる力や加速度を計算できる。	
		10週	運動の法則	運動方程式を立て、物体にかかる力や加速度を計算できる。	
		11週	運動の法則	運動方程式を立て、物体にかかる力や加速度を計算できる。	
		12週	運動の法則	運動方程式を立て、物体にかかる力や加速度を計算できる。	
		13週	運動の法則	運動方程式を立て、物体にかかる力や加速度を計算できる。	
		14週	宇宙と地球	地球の外観について理解し、地球表層や内部の地学的事象を説明できる。	
		15週	大気と海洋	地球の大気圏、水圏での基礎的な現象を説明できる。	
		16週			
後期	3rdQ	1週	科学と人間生活	科学が物質を対象とする科学であることが理解できる。	
		2週	物質の構成	原子の構造及び電子配置と周期律との関係が理解でき、物質について微視的な見方ができる。	
		3週	物質の構成	原子の構造及び電子配置と周期律との関係が理解でき、物質について微視的な見方ができる。	
		4週	物質の変化	科学反応の量的関係が理解でき、日常生活と関連付けて考察できる。	

4thQ	5週	物質の変化	科学反応の量的関係が理解でき、日常生活と関連付けて考察できる。
	6週	物質の変化	科学反応の量的関係が理解でき、日常生活と関連付けて考察できる。
	7週	物質の変化	科学反応の量的関係が理解でき、日常生活と関連付けて考察できる。
	8週	物質の変化	科学反応の量的関係が理解でき、日常生活と関連付けて考察できる。
	9週	物質の変化	科学反応の量的関係が理解でき、日常生活と関連付けて考察できる。
	10週	物質の変化	科学反応の量的関係が理解でき、日常生活と関連付けて考察できる。
	11週	生物進化と生物多様性	生物の構造を知り、進化や多様性について理解できる。
	12週	人間活動と地球環境の保全	生態系の構成要素とその関係について理解し、地球環境問題の原因と影響、保全対策について説明できる。
	13週	人間活動と地球環境の保全	生態系の構成要素とその関係について理解し、地球環境問題の原因と影響、保全対策について説明できる。
	14週	[定期試験および返却]	
15週	[定期試験および返却]		
16週			

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	50	0	0	0	20	30	100
基礎的能力	40	0	0	0	20	0	60
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	10	0	0	0	0	30	40

阿南工業高等専門学校		開講年度	平成26年度 (2014年度)	授業科目	英語A
科目基礎情報					
科目番号	0110		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般教養		対象学年	1	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	高校総合英語 Harvest 3rd Edition アプローチノート付、暗証例文付 鈴木希明 桐原書店/Sonic Reading Stage1 のとう修 桐原書店				
担当教員	藤井 浩美				
到達目標					
1. 教科書で学ぶ基本的な英文法の内容を理解できる。 2. 教科書で学ぶ基本的な英文法の知識を応用できる。 3. 文全体の意味を把握しながら、必要な情報を見つけることのできる速読力を身に付ける。 4. 教科書で学習した語彙・熟語を理解し、運用できる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	教科書などの教材で学習した文法を適切に文脈の中で理解し、説明できる。	教科書などの教材で学習した文法を適切に文脈の中で理解できる。	教科書などの教材で学習した文法を適切に文脈の中で理解することが困難である。		
評価項目2	教科書などの教材で学習した文法知識を応用して、100語程度の英作文ができるようになる。	教科書などの教材で学習した文法知識を応用して、1文単位で簡単な英作文ができる容認ある。	教科書などの教材で学習した文法知識を応用することが困難である。		
評価項目3	300語程度の英文を速読し、必要な情報を探しだし、要点をまとめることができる。	300語程度の英文を速読し、必要な情報を探しだせる。	300語程度の英文を速読し、必要な情報を探しだすことが困難である。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	英文法の理解を通じて英語基礎力を固め、英語の4技能(読む・聞く・書く・話す)を総合的に伸ばす。また、速読演習を通して読解力を向上させるとともに語彙力を増強させる。				
授業の進め方・方法					
注意点	1. プリント類やノートを日頃からキチンと整理しておくこと。(専用ファイルを用意することが望ましい) 2. 授業には必ず辞書(電子辞書可)を持ってくること。 3. 提出物の期限は厳守すること。				
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	オリエンテーション	シラバスの内容及び学習方法を理解する。	
		2週	英語の語順	各文法項目の概念を理解する。	
		3週	英語の語順	各文法項目の概念を理解する。	
		4週	時制	各文法項目の概念を理解する。	
		5週	時制	各文法項目の概念を理解する。	
		6週	Sonic Reading Stage1	英文速読を通して速読力を強化する。	
		7週	Sonic Reading Stage1	英文速読を通して速読力を強化する。	
		8週	前期中間試験		
	2ndQ	9週	完了形	各文法項目の概念を理解する。	
		10週	完了形	各文法項目の概念を理解する。	
		11週	助動詞	各文法項目の概念を理解する。	
		12週	助動詞	各文法項目の概念を理解する。	
		13週	Sonic Reading Stage1	英文速読を通して速読力を強化する。	
		14週	Sonic Reading Stage1	英文速読を通して速読力を強化する。	
		15週	前期末試験		
		16週			
後期	3rdQ	1週	受動態	各文法項目の概念を理解する。	
		2週	受動態	各文法項目の概念を理解する。	
		3週	不定詞	各文法項目の概念を理解する。	
		4週	不定詞	各文法項目の概念を理解する。	
		5週	Sonic Reading Stage1	英文速読を通して速読力を強化する。	
		6週	Sonic Reading Stage1	英文速読を通して速読力を強化する。	
		7週	後期中間試験		
		8週	動名詞	各文法項目の概念を理解する。	
	4thQ	9週	動名詞	各文法項目の概念を理解する。	
		10週	分詞	各文法項目の概念を理解する。	
		11週	分詞	各文法項目の概念を理解する。	
		12週	Sonic Reading Stage1	英文速読を通して速読力を強化する。	
		13週	Sonic Reading Stage1	英文速読を通して速読力を強化する。	
		14週	学年末試験		
		15週	答案返却		
		16週			

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	0	0	0	20	20	100
基礎的能力	60	0	0	0	20	20	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

阿南工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)	授業科目	微分積分
科目基礎情報					
科目番号	0301		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般教養		対象学年	3	
開設期	通年		週時間数	前期:2 後期:2	
教科書/教材	「微分積分 改訂版」 矢野健太郎 石原繁 編 裳華房				
担当教員	川崎 敏和, 榎田 雅弘				
到達目標					
1. 関数や数列の極限の概念を理解し、極限の計算ができる。 2. 導関数の公式を用いて基本的な関数の導関数が求められる。 3. 基本的な関数の不定積分と定積分の計算ができる。 4. 重積分や偏微分の基本的な計算ができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	数列の極限の意味を理解して基本的な数列極限計算が常時できる。	数列極限の意味を理解して基本的な数列極限計算ができる。	数列の極限計算ができない。		
評価項目2	逆三角関数を理解して、常時その値の計算や積分へ応用ができる	導関数の公式および種々の計算技法を習得して微分計算ができ、接線や極値が求められる。	導関数の公式および種々の計算技法を習得して微分計算ができ、接線や極値が求められる。		
評価項目3	積分の公式や置換積分など種々の計算技法を習得して積分計算が常時でき、面積や体積の計算が常時できる。	積分の公式や置換積分など種々の計算技法を習得して積分計算ができ、面積や体積の計算ができる。	積分計算ができない。定積分を面積計算に応用できない。		
評価項目4	累次積分が常時計算できる。重積分が常時計算できる。	累次積分や重積分の計算ができる。	累次積分や重積分の計算ができない。		
評価項目5	累次積分や重積分の計算ができない。	2次までの偏微分、合成関数の偏微分、陰関数の計算ができ、2変数関数の極値が求められる。	偏導関数が計算できない。偏導関数の応用ができない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	数学は工業高専において根幹となる科目である。本授業では極限、微分法および積分法についての理解を深め、関数の解析、図形の計量に応用できる知識と技能を修得する。また偏微分、重積分の基本的な考え方を理解し、計算力を養う。				
授業の進め方・方法	教科書を基にして単元ごとに作成したプリントを用いて、例題を解説したのち関連する問題演習を行う。併せて、習得状況を確認するための小テストを適宜行う。さらに、重要公式を書いた単語帳形式の資料を作成させることで、学習内容を整理するとともに未習得事項を把握する技術を確立する。				
注意点	1. 授業に集中し、効率的に学習する方法を確立すること。予習復習は必須である。 2. 定期試験だけでなく、平常の小テスト、提出物等での努力を怠らないこと。 3. 課題等提出物の提出期限は厳守すること。				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	数列の極限	数列の極限を求めることができる。	
		2週	無限数列の和	基本的な級数の収束・発散を調べ、その和を求めることができる。	
		3週	逆三角関数	逆三角関数の意味を理解して、その値が計算できる。	
		4週	逆三角関数の微分	逆三角関数の微分計算ができる	
		5週	逆三角関数を用いた定積分	逆三角関数を用いた定積分が計算できる	
		6週	極値と凹凸	様々な関数の極値、凹凸、変曲点が求められる	
		7週	様々な関数のグラフ	様々な関数のグラフが書ける。	
		8週	中間試験		
	2ndQ	9週	不定積分	様々な不定積分の公式を記憶している。	
		10週	定積分 1	不定積分の公式を用いて基本的な定積分の計算ができる。	
		11週	定積分 2	不定積分の公式を用いて様々な定積分の計算ができる。	
		12週	置換積分 1	簡単な置換で定積分が計算できる。	
		13週	置換積分 2	様々な置換で定積分が計算できる。	
		14週	部分積分 1	部分積分を用いて定積分が計算できる。	
		15週	部分積分 2	部分積分を複数回用いて定積分が計算できる。	
		16週	まとめ	様々な定積分が計算できる。	
後期	3rdQ	1週	定積分の応用 1	基本的な曲線で囲まれた図形の面積を定積分を用いて計算できる。	
		2週	定積分の応用 2	様々な曲線で囲まれた図形の面積を定積分を用いて計算できる。	
		3週	回転体の体積	回転体の体積を定積分を用いて計算できる。	
		4週	累次積分	累次積分が計算できる。	
		5週	重積分	重積分が計算できる。	
		6週	極座標変換	極座標変換して重積分が計算できる。	
		7週	まとめ	様々な重積分が計算できる。	

4thQ	8週	中間試験	偏微分の計算や重積分の基本的計算ができる。
	9週	2変数関数と極限	2変数関数やそのグラフの意味が理解できる。極限が計算できる。
	10週	偏微分	偏微分
	11週	第2次導関数1	基本的な関数の第2次導関数が計算できる。
	12週	第2次導関数2	様々な関数の第2次導関数が計算できる。
	13週	合成関数の微分	偏導関数を用いて合成関数の微分が求められる。
	14週	陰関数の微分	偏導関数を用いて陰関数の微分が求められる。
	15週	2変数関数の極値	偏導関数を用いて基本的な2変数関数の極値が求められる。
16週	まとめ	偏微分が計算できる。偏微分を応用して極値などが求められる。	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	定期試験	実力試験	国立高専学習到達度試験			その他	合計
総合評価割合	40	20	30	0	0	10	100
基礎的能力	40	20	30	0	0	10	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0
	0	0	0	0	0	0	0

阿南工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)	授業科目	数学C
科目基礎情報					
科目番号	0302		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般教養		対象学年	3	
開設期	通年		週時間数	前期:2 後期:2	
教科書/教材	「線形代数」矢野健太郎 石原繁 (裳華房)、「微分積分 改訂版」矢野健太郎 石原(裳華房)				
担当教員	川崎 敏和,宮本 陽生				
到達目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 行列の和・差・積・実数倍、行列式の値の計算ができる。 2. 掃き出し法や行列を用いて連立方程式を解くことができ、逆行列を求めることができる。 3. 1次変換による簡単な図形の像・原像を求めることができる。 4. 行列の固有値・固有ベクトルを求めて、対角化ができる。 5. 極座標と極方程式の基本的な計算ができる。 6. 変数分離形・同次形・1階線形など基本的な微分方程式の一般解を求めることができる。 7. 定数係数2階線形微分方程式の一般解を求めることができる。 8. 変数分離形、線形微分方程式など基本的な微分方程式の特殊解を求めることができる。 					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
到達目標1	行列式の性質を利用して行列式の値の計算ができる。	行列の和差積, および行列式の値の計算ができる。	4次の行列式の計算ができないし、行列の積も正確に計算できない。		
到達目標2	掃き出し法により、正方行列の正則性を判定できる。	き出し法や行列を用いて連立方程式を解くことができ、逆行列を求めることができる。	掃き出し法により逆行列を求めることができない。		
到達目標3	1次変換による簡単な図形の原像を求めることができる。	基礎的な1次変換を行列で表すことができ、1次変換による簡単な図形の像を求めることができる。	基礎的な1次変換を行列で表すことができない。		
到達目標4	正方行列の累乗を対角化を利用して計算することができる。	2次と3次の正方行列の固有値と固有ベクトルを求めることができ、それを用いて対角化できる。	2次正方行列の固有値と固有ベクトルを求めることができない。		
到達目標5	極座標と直交座標を相互に変換ができ、極方程式と直交座標に関する方程式を相互に変換できる。	極座標を直交座標に変換ができ、極方程式を直交座標に関する方程式に変換できる。	極座標を直交座標に変換ができない。		
到達目標6	微分方程式が変数分離形、同次形、1階線形かを判定でき、一般解を求めることができる。	変数分離形、同次形、1階線形方程式の一般解を求めることができる。	変数分離形方程式を、積分形に変形できない上に定数変化法を理解できない。		
到達目標7	非斉次項が斉次方程式の一般解に含まれている場合にも特殊解を求めることができる。	斉次方程式の一般解を求めることができ、非斉次方程式の特殊解を求めることができる。	補助方程式を求めることができない。		
到達目標8		初期条件や境界条件を理解し、一般解から特殊解を求めることができる。	初期条件・境界条件を利用して特殊解を求めることができない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	数学は工業高専において根幹となる科目である。本授業では、前期では、工学への応用で重要な役割を果たす行列と行列式の計算およびその応用を学習する。後期では、最初に極座標と極方程式について学習し、その後、基本的な微分方程式の解法を習得し、計算力を養う。				
授業の進め方・方法	教科書を基に単元ごとに作成したプリントを用いて授業を進める。例題の解説や計算方法を説明し、関連する問題演習を行う。また、小テストなどを適宜行い習得状況を確認する。				
注意点	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業に集中し、効率的に学習する方法を確立すること。予習復習は必須である。 2. 定期試験の勉強はもちろん重要であるが、平常の小テストの勉強、提出物なども努力を怠らないこと。 3. 課題など提出物は提出期限を厳守すること。 				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	行列式 (1)	2次・3次の行列式の値の計算ができる	
		2週	行列式 (2)	行列式の展開を利用して4次の行列式の値の計算ができる。行列式の性質を利用して行列式の値の計算ができる。	
		3週	行列	行列の和・差・積・実数倍の計算ができる。	
		4週	行列と行列式	正方行列の積と累乗の行列式の値を求めることができる。	
		5週	連立1次方程式・逆行列 (1)	2次正方行列の逆行列を求めることができる。	
		6週	連立1次方程式・逆行列 (2)	掃き出し法により連立1次方程式の解を求めることができる。	
		7週	連立1次方程式・逆行列 (3)	掃き出し法により3次正方行列の逆行列を求めることができる。	
		8週	前期中間試験		
	2ndQ	9週	1次変換 (1)	対称移動・回転など基本的な1次変換を行列で表すことができる。	
		10週	1次変換 (2)	1次変換の合成変換・逆変換を求めることができる。	
		11週	1次変換 (3)	直線など基本的な平面図形の、1次変換による像・原像を求めることができる。	

後期		12週	固有値と固有ベクトル (1)	2次・3次の正方行列の固有値・固有ベクトルを求めることができる。
		13週	固有値と固有ベクトル (2)	正方行列の固有値・固有ベクトルを用いて対角化できる。
		14週	固有値と固有ベクトル (3)	正方行列の累乗を対角化を利用して計算することができる。
		15週	固有値と固有ベクトル (4)	対称行列を直交行列を用いて対角化できる。
		16週	前期期末試験	
	3rdQ	1週	極座標	極座標の表し方を理解し、直交座標に変換でき、その逆もできる。
		2週	極方程式 (1)	極方程式を理解し、直交座標に関する方程式に変換でき、その逆もできる。
		3週	極方程式 (2)	2次曲線を表す極方程式を、直交座標に関する方程式に変換できる。
		4週	微分方程式と解	微分方程式を理解し、与えられた関数が一般解か特殊解か判定できる。
		5週	変数分離形微分方程式の解法 (1)	変数分離形微分方程式の一般解を求めることができる。
		6週	変数分離形微分方程式の解法 (2)	初期条件を理解し特殊解を求めることができる。
		7週	同次形微分方程式の解法	同次形微分方程式の一般解を求めることができる。
		8週	後期中間試験	
	4thQ	9週	1階線形微分方程式の解法 (1)	定数変化法により1階線形微分方程式の一般解を求めることができる。
		10週	1階線形微分方程式の解法 (2)	定数変化法により1階線形微分方程式の一般解を求めることができる。
		11週	定数係数2階線形微分方程式の解法 (1)	斉次方程式を理解し、一般解を求めることができる。
12週		定数係数2階線形微分方程式の解法 (2)	初期条件および境界条件を理解し、特殊解を求めることができる。	
13週		定数係数2階線形微分方程式の解法 (3)	非斉次方程式を理解し、特殊解と一般解を求めることができる。	
14週		定数係数2階線形微分方程式の解法 (4)	非斉次方程式を理解し、特殊解と一般解を求めることができる。	
15週		定数係数2階線形微分方程式の解法 (5)	非斉次項の関数が、斉次形方程式の一般解に含まれている場合も特殊解を求めることができる。	
16週		後期期末試験		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
評価割合						
	試験	小テスト	レポート・課題	発表	その他	合計
総合評価割合	90	0	10	0	0	100
基礎的能力	90	0	10	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0

阿南工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)	授業科目	日本語総合	
科目基礎情報						
科目番号	0303		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	一般教養		対象学年	3		
開設期	前期		週時間数	前期:2		
教科書/教材	高専日本語アビリティ I・II (阿南高専) / 級別漢字学習帳7級~2級 (東京法令出版)					
担当教員	坪井 泰士, 錦織 浩文					
到達目標						
1.古文・漢文に触れ、中国文化との関係を含む日本文化への理解を深め、親しむことができる。 2.情報の収集・選択・構成を適切に行い、活用できる。 3.論理的で、かつ、効果的な口頭表現ができる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
到達目標1	古文・漢文の時代背景・大意を適切に説明し、よどみなく暗唱できる。		古文・漢文の時代背景・大意を説明し、暗唱できる。		古文・漢文の時代背景・大意の説明、暗唱に欠ける。	
到達目標2	情報の収集・選択・構成を適切に行い、効果的に活用できる。		情報の収集・選択・構成を適切に行い、活用できる。		情報の収集・選択・構成を適切に行い、活用することに欠ける。	
到達目標3	論理的で、かつ、効果的な口頭表現ができ、その向上方法を説明できる。		論理的で、かつ、効果的な口頭表現ができる。		論理的で、かつ、効果的な口頭表現に欠ける。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	日本語の表現に関する基礎知識・技術を習得し、論理的なコミュニケーション能力を養うことを目的とする。					
授業の進め方・方法	授業は、表現に関する実践を基本とする。また、古文・漢文の鑑賞により社会を見つめる視野拡大の起点を獲得し、社会的データの活用や漢字学習により理解・表現の力を培う。					
注意点	毎時間の冒頭に「読書の時間」を設けるので、各自で本を用意すること（マンガ、雑誌、テキストを除く）。					
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	ガイダンス 情報の信頼性	シラバスにより、到達目標、評価割合、達成度基準等を理解する。 情報の信頼性の確保について説明できる。		
		2週	情報の収集と分類	ブレーンストーミング法、K-J法について説明し、実践できる。		
		3週	口頭表現	口頭表現の特徴について説明できる。		
		4週	プレゼンテーション	情報を収集・選択・活用し、図表を用いたプレゼンテーションを実践できる。		
		5週	プレゼンテーション	情報を収集・選択・活用し、図表を用いたプレゼンテーションを実践できる。		
		6週	漢字とかな	漢字とかな等について説明できる。		
		7週	漢字とかな	漢字とかな等について説明できる。		
		8週	前期中間試験			
	2ndQ	9週	答案返却 古文	枕草子・方丈記・徒然草の背景・大意を説明し、暗唱できる。		
		10週	古文	枕草子・方丈記・徒然草の背景・大意を説明し、暗唱できる。		
		11週	古文	枕草子・方丈記・徒然草の背景・大意を説明し、暗唱できる。		
		12週	漢文	論語の背景・大意を理解し、暗唱できる。		
		13週	小論文	情報を収集・選択・構成し、論理的に意見を述べることができる。		
		14週	小論文	情報を収集・選択・構成し、論理的に意見を述べることができる。		
		15週	グループ・ディスカッション	グループ・ディスカッション技法を理解し、実践できる。		
		16週	答案返却			
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標						
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標		到達レベル	授業週
評価割合						
	定期試験	小テスト	レポート・課題	発表	その他	合計
総合評価割合	75	10	0	10	5	100
基礎的能力	75	10	0	10	5	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0

阿南工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)	授業科目	英語 3	
科目基礎情報						
科目番号	0304		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 4		
開設学科	一般教養		対象学年	3		
開設期	通年		週時間数	前期:4 後期:4		
教科書/教材	Pole Star /Rapid Reading/ Repeat/ Conquer/ 英語の構文 8 0 /他					
担当教員	林田 栄治,三宅 恵美,谷川 奈緒子					
到達目標						
<ol style="list-style-type: none"> 300語～400語程度の英文を速読し大意を把握できるようにする。 本文で使われている重要語句と語彙集で取り上げた語句を習得する。 本文および文法参考書で取り上げた文法事項を理解する。 リスニング力の向上を図る。 						
ループリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	教科書の読み物と語彙集で学習した重要語句を、主な派生語も含め理解できている。		教科書の読み物と語彙集で学習した重要語句をほぼ理解できている。		教科書の読み物と語彙集で学習した語句に理解できないものが多く残っている。	
評価項目2	教科書の読み物と語彙集で学習した重要語句を、主な派生語も含め理解できている。		教科書の読み物と語彙集で学習した重要語句をほぼ理解できている。		教科書の読み物と語彙集で学習した語句に理解できないものが多く残っている。	
評価項目3	教科書の読み物の英文で学んだ重要語句・重要文法事項を他の英文の理解にも応用できる。		教科書の読み物の英文を、パートごとに重要語句・重要文法事項を含めほぼ理解できた。		教科書の読み物の英文について、理解できないところが多く残っている。	
評価項目4	教科書の読み物を音声に合わせて十分英語らしい発音でシャドウイングできる。聞いてよくわかる。		教科書の読み物と語彙集で学習した重要語句をほぼ理解できている。聞いて概ねわかる。		教科書の読み物と語彙集で学習した重要語句に理解できないものが多く残っている。聞いてわからない。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	検定教科書Pole Starを使用し精読を行います。Rapid Readingで速読力を養います。Conquerを使用し、英文法力と語彙力をつけます。英語の構文80を使い構文を基本構文をマスターします。All Ears Level 1と2でリスニング力をつけます。基礎のDVD Clipを視聴し、ドキュメンタリー英語にふれます。表現ドリルREPEATを用いて基礎英作文力をつけます。また、Topic Writingによる課題英作文の提出を求め、自由英作文力をつけます。以上の活動を通じて、総合的に英語の3技能(読む、聞く、書く)を向上させます。					
授業の進め方・方法	速読テクニックを意識しながら、300語～400語程度の英文の読解演習を行います。授業や予復習に際しては、ワークブック・補助プリントを併用し、本文に使われた語彙や文法事項を確認し、英語の総合的運動能力の向上を目指します。文法・構文力は、2年次から使用している文法参考書・ワークブックを併用して補強します。語彙力は、1年次から使用している語彙集も用いて補強します。リスニング演習、英語DVDの視聴も行います。					
注意点	<ol style="list-style-type: none"> 授業には必ず英和辞典(電子辞書可)を持参すること。 教科書の語句・語彙集の語句について適宜小テスト、課題自習プリントを課す。 提出物の提出期限は厳守すること。 					
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	Polestar Lesson1~4 Rapid Reading, All Ears Level 1, Repeat	到達目標の1から4について、全課の読解演習、構文・表現演習、速読演習、英作文を学習します。		
		2週	Polestar Lesson1~4 Rapid Reading, All Ears Level 1, Repeat Reading	到達目標の1から4について、全課の読解演習、構文・表現演習、速読演習、英作文を学習します。		
		3週	Polestar Lesson1~4 Rapid Reading, All Ears Level 1, Repeat	到達目標の1から4について、全課の読解演習、構文・表現演習、速読演習、英作文を学習します。		
		4週	Polestar Lesson1~4 Rapid Reading, All Ears Level 1, Repeat	到達目標の1から4について、全課の読解演習、構文・表現演習、速読演習、英作文を学習します。		
		5週	Polestar Lesson1~4 Rapid Reading, All Ears Level 1, Repeat	到達目標の1から4について、全課の読解演習、構文・表現演習、速読演習、英作文を学習します。		
		6週	Polestar Lesson1~4 Rapid Reading, All Ears Level 1, Repeat	到達目標の1から4について、全課の読解演習、構文・表現演習、速読演習、英作文を学習します。		
		7週	Polestar Lesson1~4 Rapid Reading, All Ears Level 1, Repeat	到達目標の1から4について、全課の読解演習、構文・表現演習、速読演習、英作文を学習します。		
		8週	Polestar Lesson1~4 Rapid Reading, All Ears Level 1, Repeat	到達目標の1から4について、全課の読解演習、構文・表現演習、速読演習、英作文を学習します。		
	2ndQ	9週	前期中間試験			
		10週	Polestar Lesson 5~6 Rapid Reading, All Ears Level 1, Repeat, 課題英作文	到達目標の1から4について、全課の読解演習、構文・表現演習、速読演習、英作文を学習します。		
		11週	Polestar Lesson 5~6 Rapid Reading, All Ears Level 1, Repeat	到達目標の1から4について、全課の読解演習、構文・表現演習、速読演習、英作文を学習します。		
		12週	Polestar Lesson 5~6 Rapid Reading, All Ears Level 1, Repeat	到達目標の1から4について、全課の読解演習、構文・表現演習、速読演習、英作文を学習します。		
		13週	Polestar Lesson 5~6 Rapid Reading, All Ears Level 1, Repeat	到達目標の1から4について、全課の読解演習、構文・表現演習、速読演習、英作文を学習します。		
		14週	Polestar Lesson 5~6 Rapid Reading, All Ears Level 1, Repea, 課題英作文	到達目標の1から4について、全課の読解演習、構文・表現演習、速読演習、英作文を学習します。		

		15週	Polestar Lesson 5~6 Rapid Reading, All Ears Level 1, Repeat	到達目標の1から4について、全課の読解演習、構文・表現演習、速読演習、英作文を学習します。
		16週	前期期末試験	
後期	3rdQ	1週	Polestar Lesson 7~8 Rapid Reading, All Ears Level 2, 英語の構文80, 課題英作文	到達目標の1から4について、全課の読解演習、構文・表現演習、速読演習、英作文、リスニングを学習します。
		2週	Polestar Lesson 7~8 Rapid Reading, All Ears Level 2, 英語の構文80	到達目標の1から4について、全課の読解演習、構文・表現演習、速読演習、英作文、リスニングを学習します。
		3週	Polestar Lesson 7~8 Rapid Reading, All Ears Level 2, 英語の構文80	到達目標の1から4について、全課の読解演習、構文・表現演習、速読演習、英作文、リスニングを学習します。
		4週	Polestar Lesson 7~8 Rapid Reading, All Ears Level 2, 英語の構文80	到達目標の1から4について、全課の読解演習、構文・表現演習、速読演習、英作文、リスニングを学習します。
		5週	Polestar Lesson 7~8 Rapid Reading, All Ears Level 2, 英語の構文80, 課題英作文	到達目標の1から4について、全課の読解演習、構文・表現演習、速読演習、英作文、リスニングを学習します。
		6週	Polestar Lesson 7~8 Rapid Reading, All Ears Level 2, 英語の構文80	到達目標の1から4について、全課の読解演習、構文・表現演習、速読演習、英作文、リスニングを学習します。
		7週	Polestar Lesson 7~8 Rapid Reading, All Ears Level 2, 英語の構文80	到達目標の1から4について、全課の読解演習、構文・表現演習、速読演習、英作文、リスニングを学習します。
		8週	Polestar Lesson 7~8 Rapid Reading, All Ears Level 2, 英語の構文80	到達目標の1から4について、全課の読解演習、構文・表現演習、速読演習、英作文、リスニングを学習します。
	4thQ	9週	後期中間試験	
		10週	Polestar Lesson 9-10 Rapid Reading, All Ears Level 2, 英語の構文80	到達目標の1から4について、全課の構文・表現演習、速読演習、英作文、リスニングを学習します。
		11週	Polestar Lesson 9-10 Rapid Reading, All Ears Level 2, 英語の構文80	到達目標の1から4について、全課の構文・表現演習、速読演習、英作文、リスニングを学習します。
		12週	Polestar Lesson 9-10 Rapid Reading, All Ears Level 2, 英語の構文80	到達目標の1から4について、全課の構文・表現演習、速読演習、英作文、リスニングを学習します。
		13週	Polestar Lesson 9-10 Rapid Reading, All Ears Level 2, 英語の構文80	到達目標の1から4について、全課の構文・表現演習、速読演習、英作文、リスニングを学習します。
		14週	Polestar Lesson 9-10 Rapid Reading, All Ears Level 2, 英語の構文80	到達目標の1から4について、全課の構文・表現演習、速読演習、英作文、リスニングを学習します。
		15週	遅れ等の調整時間	到達目標の1から4について、全課の構文・表現演習、速読演習、英作文、リスニングを学習します。
		16週	遅れ等の調整時間	到達目標の1から4について、全課の構文・表現演習、速読演習、英作文、リスニングを学習します。

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	0	0	15	15	10	100
基礎的能力	60	0	0	15	15	10	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

阿南工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)	授業科目	英作文
科目基礎情報					
科目番号	0305		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般教養		対象学年	3	
開設期	通年		週時間数	前期:2 後期:2	
教科書/教材	New Favorite English Expression I (東京書籍)、同準拠Workbook Task-based/				
担当教員	小笠原 麻衣子,山田 真穂				
到達目標					
英語を用いたコミュニケーション能力、伝達能力を身に付け、それを伸ばすことを目的とする。様々なテーマに沿って情報や考えを英語で表現、発表できること。基本的な文法事項を学びながらそれを使って英文が書けるよう作文力を習得することを具体的な目標とする。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
到達目標1	教科書のトピックに関する内容を十分理解し、自身を持って積極的に発表できる。	教科書の内容を理解し、発表を實踐できる。	教科書の内容が十分理解できず、発表を實踐することが困難である。		
到達目標2	構文を理解し、それらを応用することができ、自分の考えを英語で表現できる。	構文を理解し、指導者のサポートによりそれを応用できる。英語で自己表現しようとする姿勢がある。	構文が十分理解できず、応用が困難であり、まとまった考えを英語で表現できない。		
到達目標3	テーマに沿った100語程度の作文ができ、それを正しい発音やインドネーションで発表できる。	テーマに沿った100語程度の作文ができ、それを口頭で発表できる。	暗唱ができず、テーマの内容を口頭で十分に発表できない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	スピーキング活動ではグループやペアでの活動で発話の機会を持つ。前期ではプレゼンテーション、後期ではディベートなどを取り入れ、自分の意見を自身を持って発表する実践力を養う。ライティング活動では基本的な構文、文法事項を学び、ある程度のパラグラフが書けるよう英作文のスキル向上を目指す。前期後期、各1回のオーラルチェックで十分な自己表現ができるよう日々の講義で動機付け、技能の習熟を目的とする。				
授業の進め方・方法	テキストとワークブックを中心に英語を聞くこと、話すことを実践する。また、正しい英文が書けるよう指導する。				
注意点	授業には必ず辞書を携行し、積極的に活用すること。ワークブック及びプリントによる課題提出が定期的に求められる。前期、後期ともにオーラルチェックを実施するので、授業には常に積極的に臨み、英語を使うことを実践すること。				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	Unit 1 Lesson 1,2	基礎的な文構造、文法事項を学び、トピックに応じて実際にそれらを使うことができる。	
		2週	Unit 1 Lesson 3	同上	
		3週	Unit 1 Lesson 4,5	同上	
		4週	Unit 2 Lesson 6,7	同上	
		5週	Unit 2 Lesson8,9	同上	
		6週	Unit 2 Lesson 10	同上	
		7週	Oral Check	100語程度の作文ができ、それを自信を持って口頭ではびようできる。	
		8週	前期中間試験		
	2ndQ	9週	Unit 3 Lesson 11	基礎的な文構造、文法事項を学び、トピックに応じて実際にそれらを使うことができる。	
		10週	Unit 3 Lesson 12	同上	
		11週	Unit 3 Lesson 13	同上	
		12週	Unit 3 Lesson 14	同上	
		13週	Unit 3 Lesson 15	同上	
		14週	Communication Workshop		
		15週	前期期末試験		
		16週			
後期	3rdQ	1週	Unit 4 Lesson 16	パラグラフの構成と書き方について学び、それを實踐することができる。	
		2週	Unit 4 Lesson 17	同上	
		3週	Unit 4 Lesson 18	同上	
		4週	Unit 4 Lesson 19	同上	
		5週	Unit 4 Lesson 20	同上	
		6週	Expression Workshop		
		7週	Oral Check	様々な場面に応じた発表が口頭でできる。	
		8週	後期中間試験		
	4thQ	9週	Unit 5 Lesson 21	情報や考え気持などを英語で豊かに表現できる。	
		10週	Unit 5 Lesson 22	同上	
		11週	Unit 5 Lesson 23	同上	
		12週	Unit 5 Lesson 24	同上	
		13週	Unit 5 Lesson 25	同上	
		14週	Communication Workshop		

		15週	後期期末試験					
		16週						
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標								
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週	
評価割合								
	試験	発表	相互評価	態度	レポート・課題	その他	小テスト	合計
総合評価割合	60	15	0	0	10	0	15	100
基礎的能力	60	15	0	0	10	0	15	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0	0

阿南工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)	授業科目	物理
科目基礎情報					
科目番号	0306	科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業	単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般教養	対象学年	3		
開設期	通年	週時間数	前期:2 後期:2		
教科書/教材	総合物理 2 (数研)				
担当教員	松尾 俊寛, 平山 基				
到達目標					
<p>波の性質：波の基本原理解を説明でき、波長や振動数などの基本量を用いて波を記述できる。 音と光：音や光の諸性質を波の性質に基づいて説明でき、基本的な計算ができる。 電気と磁気：クーロンの法則や電場、電位などの基本的概念を説明できる。また、電流が磁場を生み出すことを説明でき、簡単な場合について磁場の強さを計算できる。 原子：光や電子の粒子性と波動性を説明でき、ボーアの原子模型から離散スペクトルを計算できる。また、原子核や核エネルギー、放射線についての基本的事項を説明できる。 微分積分を用いた力学：微積分を用いて力学の基本的な扱いができる。</p>					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
波の性質	波の基本原理解を説明でき、波長や振動数などの基本量を用いて波を記述できる	波の基本的性質を説明することができる。波の速さや振動数を計算できる	波の基本的性質をあげることができず、波の速さや振動数を計算できない		
音と光	音や光の諸性質を説明でき、波に関する基本法則を応用問題に運用できる	音や光の諸性質を知り、波の振る舞いに関する基本的な計算ができる	音や光の諸性質をあげることができず、波の振る舞いに関する基本的な計算ができない		
電気と磁気	クーロンの法則や電場、電位などの基本的概念を、応用問題の解決に利用できる。電流が磁場を生み出すことを理解し、磁気に関する基礎的な現象を法則にもとづいて計算できる	電気に関する基礎的な現象を説明でき、クーロンの法則や電場、電位などの基本的概念を運用できる。電流が磁場を生み出すことを説明でき、簡単な場合について磁場の強さを計算できる	電気に関する基礎的な現象をあげることができず、クーロンの法則や電場などの基本的概念を運用できない。電流が磁場を生み出すことを説明できず、磁気に関する基礎的な現象を説明できない		
原子	光や電子の二重性を説明でき、ボーアの理論から計算した離散スペクトルとバンド理論を関連づけられる。また、原子核や核エネルギー、放射線についての基本的事項を説明でき、環境社会への影響を説明できる。	光や電子の粒子性・波動性を説明でき、ボーアの理論から離散スペクトルを計算できる。また、原子核や核エネルギー、放射線についての基本的事項を説明できる	光や電子の粒子性・波動性を説明できない。ボーアの量子条件が何か説明できない。原子核や核エネルギー、放射線についての基本的事項を説明できない		
微分積分を用いた力学	力学の基本法則を微積分を用いて表すことができ、問題解決に応用できる	微分積分を用いた力学の基本的な扱いができる	微分積分を用いた力学の基本的な扱いができない		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	物理学は自然現象の探求を目的として発展した学問であるが、その成果は現代科学技術の基礎としてあらゆる分野に使われている。本講義では、物理学の学習を通じて自然現象を系統的・論理的に考えていく力を養い、広く自然の諸現象を科学的に解明するための物理的な見方、考え方を身につける。3年では、波動について学んだ後、電磁気学と原子物理の基礎を学ぶ。また、微分積分を用いた力学の扱い方について初等的な内容の学習をすすめる。				
授業の進め方・方法	授業は、小テスト（前回の復習）、講義による説明（新しく学ぶ内容）、問題演習（学んだ内容の確認）で構成します。				
注意点					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	波と媒質の運動	波に関する基本原理解を説明できる	
		2週	正弦波の式	正弦波の式を用いて波の性質を分析できる	
		3週	波の伝わり方	波の伝わり方をホイヘンスの原理を用いて説明できる	
		4週	音の性質	音に関する諸現象を波の性質を用いて説明できる	
		5週	発音体の振動と共振・共鳴	発音体の振動に関する諸計算ができる	
		6週	音のドップラー効果	ドップラー効果による振動数変化を計算できる	
		7週	光の性質	光に関する諸現象を波の性質を用いて説明できる	
		8週	中間試験		
	2ndQ	9週	レンズ	レンズの特性を光の基本的な性質から説明できる	
		10週	光の干渉と回折	光の干渉と回折に関する計算ができる	
		11週	微分積分を用いた力学	速度や加速度のような基本的な量を微分や積分を用いてあらわすことができる	
		12週	静電気力	クーロンの法則により電荷同士に働く力を計算できる	
		13週	電場と電位	電荷がつくる電場とその電位を説明できる	
		14週	電流	荷電粒子の運動の総体として電流を説明できる	
		15週	半導体	半導体の基本的事項を説明できる	
		16週	期末試験返却		
後期	3rdQ	1週	磁場	磁場の性質を説明できる	
		2週	電流の作る磁場	電流の作る磁場を計算できる	
		3週	電流が磁場から受ける力	電流が磁場から受ける力を計算できる	
		4週	ローレンツ力	磁場中を運動する荷電粒子が受ける力を説明できる	

		5週	電磁誘導の法則	電場や磁場が変化するときの現象を説明できる
		6週	電子	電子の比電荷を説明できる
		7週	光の粒子性	アインシュタインの光量子説を説明できる
		8週	中間試験	
	4thQ	9週	粒子性と波動性	X線の粒子性とコンプトン効果、ドブロイの物質波を説明できる
		10週	原子の構造とエネルギー準位	ラザフォードの原子模型を説明できる
		11週	ボーアの理論	ボーアの理論によりエネルギー準位の計算ができる
		12週	学習到達度試験	
		13週	原子核	原子核の構成と同位体を説明できる
		14週	放射線とその性質	放射線の種類とそれらの性質を説明できる
		15週	核反応と核エネルギー	核反応を説明できる
		16週	期末試験返却	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	定期試験	到達度試験	小テスト	レポート課題	態度	その他	合計
総合評価割合	40	10	20	20	10	0	100
基礎的能力	20	10	20	10	10	0	70
専門的能力	20	0	0	10	0	0	30
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

阿南工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)	授業科目	日本史
科目基礎情報					
科目番号	0307		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般教養		対象学年	3	
開設期	通年		週時間数	前期:2 後期:2	
教科書/教材	高校日本史B (山川出版社) / 写真資料集: 日本史のアーカイブ (とうほう)				
担当教員	甚川 正美				
到達目標					
1. 古代から現代にいたる我が国の歴史の基礎的知識について説明できる。 2. 過去のいろいろな出来事を歴史資料を通して明らかにし、時間の流れに即して因果関係を説明できる。 3. 世界史的視野に立って歴史の展開を考察することで、国際社会に生きる日本人としての自覚と資質を身に付けられる。					
ルーブリック					
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安	
到達目標1		古代から現代に至る我が国の歴史の基礎的知識について、詳細に説明できる。	古代から現代に至る我が国の歴史の基礎的知識について、その概要を説明できる。	古代から現代に至る我が国の歴史の基礎的知識について、十分に説明できない。	
到達目標2		日本の歴史について、詳細に説明できる。	日本の歴史の流れについて、その概略を説明できる。	日本の歴史の流れについて、十分に説明できない。	
到達目標3		国際社会に生きる日本人としての自覚について、歴史の展開に即して詳細に説明できる。	国際社会に生きる日本人としての自覚について、歴史の展開に即して説明できる。	国際社会に生きる日本人としての自覚について、歴史の展開に即して十分に説明できない。	
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	日本史を学ぶことによって、わが国の伝統や文化を理解し、国際社会に生きる日本人としての資質を養う。				
授業の進め方・方法	講義形式の授業で、日本の諸地域における歴史の流れについて、教科書を用いて考察する。また、日本文化の特色・人々の生活・都市の形成・地域同士の交流などに着目し、歴史資料を通して理解を深める。				
注意点	教科書に加えて、通常授業では歴史資料集や学習プリント等を使用する。また、ノート提出も予定しているので、「講義をしっかりと聞き、ノートをしっかりとることを心がけてほしい。				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	原始・古代	古代社会の形成や律令国家の形成、貴族政治の展開について理解し説明できる。(旧石器時代～平安中期)	
		2週	原始・古代	古代社会の形成や律令国家の形成、貴族政治の展開について理解し説明できる。(旧石器時代～平安中期)	
		3週	原始・古代	古代社会の形成や律令国家の形成、貴族政治の展開について理解し説明できる。(旧石器時代～平安中期)	
		4週	原始・古代	古代社会の形成や律令国家の形成、貴族政治の展開について理解し説明できる。(旧石器時代～平安中期)	
		5週	原始・古代	古代社会の形成や律令国家の形成、貴族政治の展開について理解し説明できる。(旧石器時代～平安中期)	
		6週	中世	武家社会の形成や成長の様相について理解し説明できる。(平安後期～室町)	
		7週	中世	武家社会の形成や成長の様相について理解し説明できる。(平安後期～室町)	
		8週	中間試験		
	2ndQ	9週	中世	武家社会の形成や成長の様相について理解し説明できる。(平安後期～室町)	
		10週	中世	武家社会の形成や成長の様相について理解し説明できる。(平安後期～室町)	
		11週	中世	武家社会の形成や成長の様相について理解し説明できる。(平安後期～室町)	
		12週	近世 (1)	幕藩体制の成立の様相について理解し説明できる。(安土・桃山～江戸初期)	
		13週	近世 (1)	幕藩体制の成立の様相について理解し説明できる。(安土・桃山～江戸初期)	
		14週	近世 (1)	幕藩体制の成立の様相について理解し説明できる。(安土・桃山～江戸初期)	
		15週	近世 (1)	幕藩体制の成立の様相について理解し説明できる。(安土・桃山～江戸初期)	
		16週	期末試験答案返却時間		
後期	3rdQ	1週	近世 (2)	幕藩体制の展開や動揺の様相について理解し説明できる。(江戸中期・後期)	
		2週	近世 (2)	幕藩体制の展開や動揺の様相について理解し説明できる。(江戸中期・後期)	
		3週	近世 (2)	幕藩体制の展開や動揺の様相について理解し説明できる。(江戸中期・後期)	
		4週	近代 (1)	近代国家の成立の様相について理解し説明できる。(幕末～明治)	
		5週	近代 (1)	近代国家の成立の様相について理解し説明できる。(幕末～明治)	

4thQ	6週	近代 (1)	近代国家の成立の様相について理解し説明できる。 (幕末～明治)
	7週	近代 (1)	近代国家の成立の様相について理解し説明できる。 (幕末～明治)
	8週	中間試験	
	9週	近代 (2)	近代日本とアジアの関係について理解し説明できる。 (大正～戦前昭和)
	10週	近代 (2)	近代日本とアジアの関係について理解し説明できる。 (大正～戦前昭和)
	11週	近代 (2)	近代日本とアジアの関係について理解し説明できる。 (大正～戦前昭和)
	12週	現代	現代の世界と日本との関わりについて説明できる。 (戦後昭和～平成)
	13週	現代	現代の世界と日本との関わりについて説明できる。 (戦後昭和～平成)
	14週	現代	現代の世界と日本との関わりについて説明できる。 (戦後昭和～平成)
	15週	現代	現代の世界と日本との関わりについて説明できる。 (戦後昭和～平成)
16週	期末試験答案返却時間		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
評価割合						
	定期試験	小テスト	レポート・課題	発表	その他	合計
総合評価割合	80	0	20	0	0	100
基礎的能力	80	0	20	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0

阿南工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)	授業科目	地理
科目基礎情報					
科目番号	0308		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般教養		対象学年	3	
開設期	通年		週時間数	前期:2 後期:2	
教科書/教材	新詳地理(帝国書院)/新詳高等地図(帝国書院)				
担当教員	宮本 寛和				
到達目標					
<p>1. 自然環境、資源、産業、都市・村落、生活文化に関する地域性について系統地理的に理解できる。</p> <p>2. 現代世界を構成する各地域を地誌的に考察し、多様な特色を持っていることを理解できる。</p> <p>3. 地理的に考察する意義や有用性に気づき、地理的な見方や考え方を身につけられる。</p>					
ルーブリック					
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安	
評価項目1		自然環境と人間生活のかかわりと地域性について、地理的事象から課題を設定し、追究できる。	自然環境と人間生活のかかわりと地域性を系統地理的に理解し、それらの知識を身につけて説明できる。	自然環境と人間生活について、個別の事象のみ説明できる。	
評価項目2		現代社会の各地域に関する資料や情報を地誌的に追究する技能を身につけ、まとめることができる。	現代社会の各地域について、多様な特色があることを理解し、それらの知識を身につけて説明できる。	現代社会の各地域について、特定の国・項目についてのみ説明できる。	
評価項目3		現代世界の多様性や地域性をとらえる視点や方法を考察し、系統地理・地誌の両面から説明できる。	地理的に考察する意義と有用性に気づき、現代世界と日本を概観し、地理的事象について説明できる。	地図を見て、現代社会の各地域の位置と地形のみ説明できる。	
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	現代世界の地理的事象を系統地理的、地誌的に考察する。				
授業の進め方・方法	講義形式での授業をつうじて、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。				
注意点	都道府県名や主要国名、首都名などは地理学習の基本です。地図帳を開く習慣を身につけてください。				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	地理情報と地図、地図の活用	地図でとらえる現代世界について、地図化のメリットや地図化だけわかることを考察し、地図化の技能を習得している。	
		2週	自然環境	地形および気候の特徴と人間生活への影響の多様性や地域性を大観し、それらの知識を身につけている。	
		3週	自然環境	地形および気候の特徴と人間生活への影響の多様性や地域性を大観し、それらの知識を身につけている。	
		4週	自然環境	地形および気候の特徴と人間生活への影響の多様性や地域性を大観し、それらの知識を身につけている。	
		5週	自然環境	地形および気候の特徴と人間生活への影響の多様性や地域性を大観し、それらの知識を身につけている。	
		6週	自然環境	地形および気候の特徴と人間生活への影響の多様性や地域性を大観し、それらの知識を身につけている。	
		7週	自然環境	地形および気候の特徴と人間生活への影響の多様性や地域性を大観し、それらの知識を身につけている。	
		8週	中間試験		
	2ndQ	9週	資源と産業	産業の発達と変化について、自然環境とのかかわりやグローバル化の視点から考察できる。	
		10週	資源と産業	産業の発達と変化について、自然環境とのかかわりやグローバル化の視点から考察できる。	
		11週	資源と産業	産業の発達と変化について、自然環境とのかかわりやグローバル化の視点から考察できる。	
		12週	資源と産業	産業の発達と変化について、自然環境とのかかわりやグローバル化の視点から考察できる。	
		13週	資源と産業	産業の発達と変化について、自然環境とのかかわりやグローバル化の視点から考察できる。	
		14週	資源と産業	産業の発達と変化について、自然環境とのかかわりやグローバル化の視点から考察できる。	
		15週	資源と産業	産業の発達と変化について、自然環境とのかかわりやグローバル化の視点から考察できる。	
		16週	期末試験答案返却時間		
後期	3rdQ	1週	人口、村落・都市	村落・都市の立地や発達・機能に関する資料や情報を系統地理的に追究する技能を身につけている。	
		2週	人口、村落・都市	村落・都市の立地や発達・機能に関する資料や情報を系統地理的に追究する技能を身につけている。	
		3週	人口、村落・都市	村落・都市の立地や発達・機能に関する資料や情報を系統地理的に追究する技能を身につけている。	

4thQ	4週	生活文化、民族・宗教	衣食住の差異と社会のかかわりについて感心を高め、それらの多様性や地域性をとらえる視点や方法を身につけている。
	5週	生活文化、民族・宗教	衣食住の差異と社会のかかわりについて感心を高め、それらの多様性や地域性をとらえる視点や方法を身につけている。
	6週	生活文化、民族・宗教	衣食住の差異と社会のかかわりについて感心を高め、それらの多様性や地域性をとらえる視点や方法を身につけている。
	7週	生活文化、民族・宗教	衣食住の差異と社会のかかわりについて感心を高め、それらの多様性や地域性をとらえる視点や方法を身につけている。
	8週	中間試験	
	9週	現代世界の諸地域	世界の諸地域よ多様性について地誌的に理解するとともに、地誌的にとらえる視点や方法を理解し、それらの知識を身につけている。
	10週	現代世界の諸地域	世界の諸地域よ多様性について地誌的に理解するとともに、地誌的にとらえる視点や方法を理解し、それらの知識を身につけている。
	11週	現代世界の諸地域	世界の諸地域よ多様性について地誌的に理解するとともに、地誌的にとらえる視点や方法を理解し、それらの知識を身につけている。
	12週	現代世界の諸地域	世界の諸地域よ多様性について地誌的に理解するとともに、地誌的にとらえる視点や方法を理解し、それらの知識を身につけている。
	13週	現代世界の諸地域	世界の諸地域よ多様性について地誌的に理解するとともに、地誌的にとらえる視点や方法を理解し、それらの知識を身につけている。
	14週	現代世界と日本	日本が抱える地理的な諸課題を認識し、解決の方向性を考察できる。
	15週	現代世界と日本	日本が抱える地理的な諸課題を認識し、解決の方向性を考察できる。
	16週	期末試験答案返却時間	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
	定期試験	小テスト	レポート・課題	発表	その他
総合評価割合	80	0	20	0	0
基礎的能力	80	0	20	0	0
専門的能力	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0
合計					

阿南工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)	授業科目	体育
科目基礎情報					
科目番号	0309		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般教養		対象学年	3	
開設期	通年		週時間数	前期:2 後期:2	
教科書/教材					
担当教員	新井 修,中島 一				
到達目標					
1.互いに協力し合い、主体的に練習やゲームの方法を工夫して運動を実践できる。 2.自己の能力に応じて、運動の技能や体力を身につけることができる。 3.安全に留意して運動や活動ができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
到達目標1	自己及び、仲間の取るべき行動を適切に判断し、主体的に練習やゲームを工夫し、活動を円滑に実践できる。	自己の取るべき行動を判断し、他人と協力しながら練習やゲームを工夫し、活動に参加できる。	自己の取るべき行動が判断できない。または他人と協力する姿勢がみられず、活動に参加できない。		
到達目標2	自己の能力を理解し、適切なプログラムを作成して運動の技能や体力を身につけることができる。	教員が指示したプログラムに従い、運動の技能や体力を身につけることができる。	教員の指示に従わず、運動の技能や体力を身につけることができない。		
到達目標3	活動中、自己のみならず仲間の安全に留意し、必要に応じて危険を回避する行動を取ることができる。	活動中、事故の安全に留意し、必要に応じて危険を回避する行動を取ることができる。	活動中、安全に留意して行動できない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	運動を行うことにより、運動することの楽しさや喜びの実感、運動に必要な技能の習得及び、体力の向上を図る。合わせて自ら意欲的に運動に取り組む姿勢や、生涯に渡って運動に親しむ態度を育てる。特に本授業では、生涯スポーツの観点から、自己の能力や興味関心に応じて種目を選択させ、運動を安全かつ楽しみながら実践できるよう、工夫・協力しながら学習することに重点を置く。				
授業の進め方・方法	前期・後期の第1週目に種目を選択・決定し、半期を通じて該当種目を実施する。準備や運営を自主的に行うことで、生涯スポーツの基礎を身につける。				
注意点	普段から健康管理を心がけ、風邪などにより授業を見学・欠席することの無いよう気をつけてください。 学校指定の体操服で活動してください。 天候等、やむを得ない事情により、実施種目は変更されることがあります。 体育大会は授業時数に含まれますので、欠席しないようにしてください。				
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	種目選択と実践	(1)各種目のルールを理解し説明できる。	
		2週	種目選択と実践	(2)各種目の基本的な個人技能を習得する。	
		3週	種目選択と実践	(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。	
		4週	種目選択と実践	(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。	
		5週	種目選択と実践	(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。	
		6週	種目選択と実践	(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。	
		7週	種目選択と実践	(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。	
		8週	種目選択と実践	(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。	
	2ndQ	9週	種目選択と実践	(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。	
		10週	種目選択と実践	(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。	
		11週	種目選択と実践	(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。	
		12週	種目選択と実践	(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。	
		13週	体育大会(前期)	(1)参加する種目で、仲間と協力してゲームを実践できる。	
		14週	体育大会(前期)	(1)参加する種目で、仲間と協力してゲームを実践できる。	
		15週	体育大会(前期)	(1)参加する種目で、仲間と協力してゲームを実践できる。	
		16週			
後期	3rdQ	1週	種目選択と実践	(1)各種目のルールを理解し説明できる。	
		2週	種目選択と実践	(2)各種目の基本的な個人技能を習得する。	
		3週	種目選択と実践	(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。	
		4週	種目選択と実践	(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。	
		5週	種目選択と実践	(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。	
		6週	種目選択と実践	(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。	
		7週	種目選択と実践	(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。	
		8週	種目選択と実践	(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。	
	4thQ	9週	種目選択と実践	(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。	
		10週	種目選択と実践	(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。	
		11週	種目選択と実践	(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。	

	12週	種目選択と実践	(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。
	13週	体育大会(後期)	(1)参加する種目で、仲間と協力してゲームを実践できる。
	14週	体育大会(後期)	(1)参加する種目で、仲間と協力してゲームを実践できる。
	15週	体育大会(後期)	(1)参加する種目で、仲間と協力してゲームを実践できる。
	16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	0	100	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	100	100

阿南工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	英語総合1	
科目基礎情報						
科目番号	0401	科目区分	一般 / 必修			
授業形態	授業	単位の種別と単位数	学修単位: 2			
開設学科	一般教養	対象学年	4			
開設期	後期	週時間数	2			
教科書/教材	Video Interviews with 14 Professionals Working in Japan					
担当教員	勝藤 和子, 谷中 俊裕					
到達目標						
1. 教材のさまざまな専門職の人々のインタビューを視聴して、その内容についての質問に答えられる。 2. 1の教材のスク립トに目を読解し、その内容についての質問に答えられる。 3. 教材に用いられている専門用語を含む重要語彙や重要文法事項を和文英訳に応用できる。 4. 3の重要語彙や重要文法事項を自分の意見を表明する簡単な英作文に応用できる。						
ループリック						
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	最低限レベルの目安(不可)			
到達目標1	教材のビデオを視聴して、概要を理解することができ、教材のスク립トの空所も補うこともできる程度に正確に英語を聞き取ることができる。	教材のビデオを視聴して、正確な英語を聞き取ることができなくても、概要を理解することができる。	教材のビデオを視聴しても、概要を理解することができない。			
到達目標2	長文読解教材について、内容についての質問に完全な英文でも答えられる。	長文読解教材について、内容についての質問に、単語レベルの英語なら答えられる。	長文読解教材について、内容についての質問に、単語レベルの英語でも答えられない。			
到達目標3	教材で学習した英語表現を、文単位で英作文に応用できる。	教材で学習した英語表現を、空所補充や部分英作文に応用することができる。	教材で学習した英語表現の理解が十分でなく、空所補充や部分英作文にも応用することができない。			
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	専門職へのインタビューを取り扱った英語視聴覚教材の音声・映像とそのスク립トを通して専門用語を含む英文の聴解力・読解力を高める。また登場した語彙や文法の重要事項を習得し、その知識を和文英訳や自分の意見を表明する簡単な英作文に応用できるようにする。					
授業の進め方・方法						
注意点	1. 授業には英和辞書(電子辞書可)を持参すること。 2. オリエンテーション時に説明する方法で、自学自習として予習復習を十分行うこと。 3. 教材のDVDを自分でも視聴できる環境を整えておくこと。					
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	オリエンテーション	学習方法についての理解		
		2週	Unit1~8	到達目標の1~4について、全Unitを題材に学習します。		
		3週	Unit1~8	到達目標の1~4について、全Unitを題材に学習します。		
		4週	Unit1~8	到達目標の1~4について、全Unitを題材に学習します。		
		5週	Unit1~8	到達目標の1~4について、全Unitを題材に学習します。		
		6週	Unit1~8	到達目標の1~4について、全Unitを題材に学習します。		
		7週	Unit1~8	到達目標の1~4について、全Unitを題材に学習します。		
		8週	Unit1~8	到達目標の1~4について、全Unitを題材に学習します。		
	4thQ	9週	【後期中間試験】			
		10週	Unit9~14	到達目標の1~4について、全Unitを題材に学習します。		
		11週	Unit9~14	到達目標の1~4について、全Unitを題材に学習します。		
		12週	Unit9~14	到達目標の1~4について、全Unitを題材に学習します。		
		13週	Unit9~14	到達目標の1~4について、全Unitを題材に学習します。		
		14週	Unit9~14	到達目標の1~4について、全Unitを題材に学習します。		
		15週	Unit9~14	到達目標の1~4について、全Unitを題材に学習します。		
		16週	【学年末試験】			
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標						
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
評価割合						
	定期試験	小テスト	ポートフォリオ	発表・取り組み姿勢	その他	合計
総合評価割合	70	10	20	0	0	100

基礎的能力	70	10	20	0	0	100
專門的能力	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0

阿南工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	哲学
科目基礎情報					
科目番号	0402		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般教養		対象学年	4	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	【教科書】 使用しません。適宜、プリント資料を配付します。 【参考書】 高等学校倫理 (第一学習社)				
担当教員	藤居 岳人				
到達目標					
1. 哲学上の諸問題に関する基礎的な知識について説明できる。 2. 議論用資料作成を通して、自分の主張を明確に文章にまとめることができる。 3. 議論を通して、周囲の意見を認めることができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
到達目標 1	哲学上の諸問題に関する基礎的な知識について、講義内容の詳細を踏まえて、説明できる。	哲学上の諸問題に関する基礎的な知識について、講義内容の概略を踏まえて、説明できる。	哲学上の諸問題に関する基礎的な知識について説明できない。		
到達目標 2	論理に矛盾がなく、十分な分量で自分の主張を議論用資料として文章にまとめることができる。	十分な分量で自分の主張を議論用資料として文章にまとめることができる。	論理に矛盾があり、自分の主張が明確には文章にまとめられていない。		
到達目標 3	議論に主体的にかかわり、周囲の意見を尊重できる。	議論にかかわり、周囲の意見を尊重できる。	議論へのかかわりが不十分で、周囲の意見の尊重も不十分である。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	自分自身もつまさまざまな疑問に対して、徹底的に考え抜くことが哲学における基本的態度です。「哲学する」とはどのようなことかについて、西洋と日本の思想を取り上げつつ、講義してゆきます。そして、哲学上の諸問題に関する講義と議論用資料作成を・議論を通して、①それぞれの学生が「哲学する」ことができるように動機づけして、国際人として通用する柔軟な思考を養成します。②それぞれの学生が多様な価値観を認めつつ、自己の確立ができるようになります。				
授業の進め方・方法	基本的に講義形式ですが、年4回議論の時間を予定しています。				
注意点	議論のための資料として、適宜、小レポートを提出してもらう予定です。レポートはUSBメモリー・メール・manaba等で受けつけるので、その心づもりをしておいてください。議論は年4回を予定しています。また、講義で述べたことについて定期試験で確認する方針なので、「講義をしっかりと聴く」ことを心がけてほしいと思います。				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	「哲学」とは？	「哲学」と「思想」との相違について、説明できる。	
		2週	「哲学」とは？	「哲学」と「思想」との相違について、説明できる。	
		3週	「哲学」「philosophia」の語	「哲学」の語の由来について、説明できる。	
		4週	「哲学」「philosophia」の語	「哲学」の語の由来について、説明できる。	
		5週	「哲学」「philosophia」の語	「philosophia」の語の由来について、説明できる。	
		6週	「哲学」「philosophia」の語	「philosophia」の語の由来について、説明できる。	
		7週	議論	資料作成を通して自分の意見をまとめ、議論を通して周囲の意見を認められる。	
		8週	西洋における哲学上の諸問題 1	デカルトを中心にした主観客観の一致問題について、説明できる。	
	2ndQ	9週	西洋における哲学上の諸問題 1	デカルトを中心にした主観客観の一致問題について、説明できる。	
		10週	西洋における哲学上の諸問題 2	ロック・ヒュームを中心にした主観客観の一致問題について、説明できる。	
		11週	西洋における哲学上の諸問題 2	ロック・ヒュームを中心にした主観客観の一致問題について、説明できる。	
		12週	西洋における哲学上の諸問題 3	カント・ヘーゲルを中心にした主観客観の一致問題について、説明できる。	
		13週	西洋における哲学上の諸問題 3	カント・ヘーゲルを中心にした主観客観の一致問題について、説明できる。	
		14週	西洋における哲学上の諸問題 3	カント・ヘーゲルを中心にした主観客観の一致問題について、説明できる。	
		15週	議論	資料作成を通して自分の意見をまとめ、議論を通して周囲の意見を認められる。	
		16週	【答案返却時間】		
後期	3rdQ	1週	日本における哲学上の諸問題 1	『古事記』を中心にした古代人の思想について、説明できる。	
		2週	日本における哲学上の諸問題 1	『古事記』を中心にした古代人の思想について、説明できる。	
		3週	日本における哲学上の諸問題 1	『古事記』を中心にした古代人の思想について、説明できる。	
		4週	日本における哲学上の諸問題 2	言霊の思想を中心にした古代人の思想について、説明できる。	
		5週	日本における哲学上の諸問題 2	言霊の思想を中心にした古代人の思想について、説明できる。	
		6週	議論	資料作成を通して自分の意見をまとめ、議論を通して周囲の意見を認められる。	

4thQ	7週	日本における哲学上の諸問題 3	禅の思想・道元を中心に中世人の思想について、説明できる。
	8週	日本における哲学上の諸問題 3	禅の思想・道元を中心に中世人の思想について、説明できる。
	9週	日本における哲学上の諸問題 3	禅の思想・道元を中心に中世人の思想について、説明できる。
	10週	日本における哲学上の諸問題 3	実存主義の思想について、説明できる。
	11週	日本における哲学上の諸問題 4	世阿弥を中心に中世人の思想について、説明できる。
	12週	日本における哲学上の諸問題 4	世阿弥を中心に中世人の思想について、説明できる。
	13週	日本における哲学上の諸問題 5	千利休を中心に近世人の思想について、説明できる。
	14週	日本における哲学上の諸問題 5	千利休を中心に近世人の思想について、説明できる。
	15週	議論	資料作成を通して自分の意見をまとめ、議論を通して周囲の意見を認められる。
	16週	【答案返却時間】	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	定期試験	小テスト	ポートフォリオ	発表・取り組み姿勢	その他	合計
総合評価割合	60	0	0	0	40	100
基礎的能力	60	0	0	0	32	92
専門的能力	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	8	8

阿南工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	法学
科目基礎情報					
科目番号	0403		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般教養		対象学年	4	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	ガイドブック法学 (嵯峨野書院)				
担当教員	今田 浩之				
到達目標					
1. 法規範の特質、法分類、裁判手続の基本について説明できる。 2. 憲法の基本的人権論、司法審査理論について説明できる。 3. 民法、刑法などの原理・制度・運用について説明できる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		最低限の到達レベル (可)
到達目標1	法規範の特質分析や法分類の意義、裁判手続における立証責任の意義について説明できる。		法規範の特質、法分類、裁判手続の基本の概要について説明できる。		法規範の特質、法分類、裁判手続の基本の要点について説明できる。
到達目標2	憲法の基本的人権に関する判例の意義と課題を説明できる。		憲法の基本的人権論、司法審査理論について概要を説明できる。		憲法の基本的人権論、司法審査理論の要点について説明できる。
到達目標3	民法、刑法などの原理・制度・運用について説明できる。		民法、刑法などの原理・制度の概要について説明できる。		民法、刑法などの原理・制度の要点について説明できる。
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	この科目では、具体的な法文や訴訟判例を素材に、現行法の制度・運用について検討し、各自が法的思考能力を身に付けることを目標とする。				
授業の進め方・方法	授業では、まず、「法学基礎論」で法学の基礎的知識や方法論を学び、次に「法学各論」で各法分野につき、制度や運用に関する具体的な法文や訴訟判例の検討を通じて、法的思考方法を習得する。				
注意点	日常的に、様々な現実社会の問題について、法的観点から考えてみるようにして下さい。 新しい立法や裁判の動向、権利や自由に関する時事的な話題にも積極的に目を向けましょう。 参考書：法の世界へ[第7版](有斐閣)				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	法とは何か	社会規範としての法の特質、法の諸分類について説明できる。	
		2週	法とは何か	社会規範としての法の特質、法の諸分類について説明できる。	
		3週	法の解釈	法の解釈技術について説明できる。	
		4週	法の解釈	法の解釈技術について説明できる。	
		5週	法の解釈	法の解釈技術について説明できる。	
		6週	裁判の構造	裁判手続の基本的構造、立証責任について説明できる。	
		7週	裁判の構造	裁判手続の基本的構造、立証責任について説明できる。	
		8週	裁判の構造	裁判手続の基本的構造、立証責任について説明できる。	
	2ndQ	9週	憲法の基本的人権保障	基本的人権、司法審査制、二重の基準論について説明できる。	
		10週	憲法の基本的人権保障	基本的人権、司法審査制、二重の基準論について説明できる。	
		11週	憲法の基本的人権保障	基本的人権、司法審査制、二重の基準論について説明できる。	
		12週	憲法の基本的人権保障	基本的人権、司法審査制、二重の基準論について説明できる。	
		13週	民法	債権、契約、不法行為、物権などについて説明できる。	
		14週	民法	債権、契約、不法行為、物権などについて説明できる。	
		15週	民法	債権、契約、不法行為、物権などについて説明できる。	
		16週	期末試験答案返却		
後期	3rdQ	1週	民法	債権、契約、不法行為、物権などについて説明できる。	
		2週	民法	債権、契約、不法行為、物権などについて説明できる。	
		3週	消費者保護法	特定商取引法、消費者契約法などについて説明できる。	
		4週	消費者保護法	特定商取引法、消費者契約法などについて説明できる。	
		5週	消費者保護法	特定商取引法、消費者契約法などについて説明できる。	
		6週	製造物責任法	製造物、製造業者、欠陥責任などについて説明できる。	

4thQ	7週	製造物責任法	製造物、製造業者、欠陥責任などについて説明できる。
	8週	製造物責任法	製造物、製造業者、欠陥責任などについて説明できる。
	9週	刑法	罪刑法定主義、犯罪成立要件、刑罰などについて説明できる。
	10週	刑法	罪刑法定主義、犯罪成立要件、刑罰などについて説明できる。
	11週	刑法	適正手続原則、刑事手続の全体構造などについて説明できる。
	12週	刑事訴訟法	適正手続原則、刑事手続の全体構造などについて説明できる。
	13週	刑事訴訟法	適正手続原則、刑事手続の全体構造などについて説明できる。
	14週	労働法	労働基準法、男女雇用機会均等法などについて説明できる。
	15週	労働法	労働基準法、男女雇用機会均等法などについて説明できる。
	16週	期末試験答案返却	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	公民	民主政治の基本的原理、日本国憲法の成り立ちやその特性について理解できる。	2	
			資本主義経済の特質や財政・金融などの機能、経済面での政府の役割について理解できる。	2	
			現代社会の政治的・経済的諸課題、および公正な社会の実現に向けた現在までの取り組みについて理解できる。	2	
		地歴・公民	現代科学の考え方や科学技術の特質、科学技術が社会や自然環境に与える影響について理解できる。	2	
			社会や自然環境に調和し、人類にとって必要な科学技術のあり方についての様々な考え方について理解できる。	2	
			今日の国際的な政治・経済の仕組みや、国家間の結びつきの現状とそのさまざまな背景について理解できる。	2	
			環境問題、資源・エネルギー問題、南北問題、人口・食糧問題といった地球的諸課題とその背景について理解できる。	2	
			国際平和・国際協力の推進、地球的諸課題の解決に向けた現在までの取り組みについて理解できる。	2	

評価割合

	定期試験	小テスト	ポートフォリオ	発表・取り組み姿勢	その他	合計
総合評価割合	70	0	30	0	0	100
基礎的能力	60	0	20	0	0	80
専門的能力	10	0	10	0	0	20
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0

阿南工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	体育		
科目基礎情報							
科目番号	0404		科目区分	一般 / 選択			
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1			
開設学科	一般教養		対象学年	4			
開設期	後期		週時間数	2			
教科書/教材							
担当教員	新井 修, 中島 一						
到達目標							
<p>1.互いに協力し合い、主体的に練習やゲームの方法を工夫して運動を実践できる。</p> <p>2.自己の能力に応じて、運動の技能や体力を身につけることができる。</p> <p>3.安全に留意して運動や活動ができる。</p>							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安				
到達目標1	自己及び、仲間の取るべき行動を適切に判断し、主体的に練習やゲームを工夫し、活動を円滑に実践できる。	自己の取るべき行動を判断し、他人と互いに協力しながら練習やゲームを工夫し、活動に参加できる。	自己の取るべき行動が判断できない。または他人と協力する姿勢が見られず、活動に参加できない。				
到達目標2	自己の能力を理解し、適切なプログラムを作成して運動の技能や体力を身につけることができる。	教員が指示したプログラムに従い、運動の技能や体力を身につけることができる。	教員の指示に従わず、運動の技能や体力を身につけることができない。				
到達目標3	活動中、自己のみならず仲間も安全に留意し、必要に応じて危険を回避する行動を取る事ができる。	活動中、自分の安全に留意し、必要に応じて危険を回避する行動を取ることができる。	活動中、安全に留意して活動できない。				
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	運動を行うことにより、運動することの楽しさや喜びの実感、運動に必要な技能の習得及び体力の向上を図る。あわせて自ら意欲的に運動に取り組む姿勢や、生涯にわたって運動に親しむ態度を育てる。特に本授業では、生涯スポーツの観点から、自己の能力や興味関心に応じて種目を選択させ、運動を安全かつ楽しみながら実践できるよう、工夫・協力しながら学習することに重点を置く。						
授業の進め方・方法	第1週目に種目を選択・決定し、半期を通じて該当種目を実施する。準備や運営を自主的に行うことで、生涯スポーツの基礎を身につける。						
注意点	普段から健康管理を心がけ、風邪などにより授業を見学・欠席することの無いよう気をつけてください。学校指定の体操服で活動してください。天候等、やむを得ない事情により、実施種目は変更されることがあります。前期の体育大会は授業時数に含まれますので、欠席しないようにして下さい。						
授業計画							
	週	授業内容	週ごとの到達目標				
後期	3rdQ	1週	種目選択と実践	(1)各種目のルールを理解し説明できる。			
		2週	種目選択と実践	(2)各種目の基本的な個人技能を習得する。			
		3週	種目選択と実践	(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。			
		4週	種目選択と実践	(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。			
		5週	種目選択と実践	(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。			
		6週	種目選択と実践	(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。			
		7週	種目選択と実践	(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。			
		8週	種目選択と実践	(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。			
	4thQ	9週	種目選択と実践	(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。			
		10週	種目選択と実践	(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。			
		11週	種目選択と実践	(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。			
		12週	種目選択と実践	(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。			
		13週	体育大会(後期)	(1)参加する種目で、仲間と協力してゲームを実践できる。			
		14週	体育大会(後期)	(1)参加する種目で、仲間と協力してゲームを実践できる。			
		15週	体育大会(後期)	(1)参加する種目で、仲間と協力してゲームを実践できる。			
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	0	100	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	100	100

阿南工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	英語の語彙・文法
科目基礎情報					
科目番号	0405		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般教養		対象学年	4	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	TOEIC Test: On Target (南雲堂)、英単語・熟語ダイアログ1200 (旺文社)				
担当教員	谷中 俊裕, 藤井 浩美				
到達目標					
1. TOEICの出題傾向を把握し、出題形式に慣れ、各パートの問題形式に対応することができる。 2. 授業で扱った、TOEICに頻出する語彙・表現を理解し、運用できるようになる。 3. 授業で扱った、TOEICに頻出する文法事項や構文を理解し、運用できるようになる。					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
到達目標1	TOEICの出題傾向、出題形式を把握し、解答時間も考慮しながら適切な対応ができる。		TOEICの出題傾向を把握し、各パートの問題形式に対応できる。		TOEICの出題傾向を把握しておらず、各パートの問題形式に対応できない。
到達目標2	授業で扱った、TOEICに頻出する語彙・表現の90%以上を暗記し、正しく運用できる。		授業で扱った、TOEICに頻出する語彙・表現の60%程度を暗記し、ほぼ正しく運用できる。		授業で扱った、TOEICに頻出する語彙・表現の暗記が60%未満で運用力が低い。
到達目標3	授業で扱った、TOEICに頻出する文法事項や構文を90%以上理解し、正しく運用できる。		授業で扱った、TOEICに頻出する文法事項や構文を60%程度理解し、ほぼ正しく運用できる。		授業で扱った、TOEICに頻出する文法事項や構文の理解が60%未満で運用力が低い。
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	TOEIC実践形式の問題演習を通して語彙力、文法力、聴解力、読解力を総合的に向上させ、300~375点のTOEICスコアを達成する。また、ダイアログ式の単語・熟語集を用いて、単語や熟語を暗記し、適切に運用できるようになる。				
授業の進め方・方法					
注意点	1. 授業には辞書（電子辞書可）を持参すること。 2. オリエンテーションで説明するやり阿多で十分予習・復習を行うこと。 3. 【重要】TOEICスコアを成績に含めるので、前期に実施されるTOEICを必ず受験すること。（獲得スコアが300定位未満の場合、総合評価の「その他」の10点分が与えられない。）				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	オリエンテーション	授業の目的、当宅目標、学習方法を理解する。	
		2週	Unit 1	各ユニットの問題演習を通して、 1. TOEICの出題傾向を把握し、出題形式に慣れ、各パートの問題景色に対応できるようになる。 2. 交通、情報案内、指示、説明、飲食、ビジネス、通信・コミュニケーション、社交の各場面におけるTOEIC頻出語彙・表現を理解し、運用できるようになる。 3. 疑問代名詞、疑問副詞、否定疑問、進行形、完了形、受動態、不定詞、分子、動名詞など、TOEIC頻出の文法項目・構文を理解し、運用できるようになる。	
		3週	Unit 2	各ユニットの問題演習を通して、 1. TOEICの出題傾向を把握し、出題形式に慣れ、各パートの問題景色に対応できるようになる。 2. 交通、情報案内、指示、説明、飲食、ビジネス、通信・コミュニケーション、社交の各場面におけるTOEIC頻出語彙・表現を理解し、運用できるようになる。 3. 疑問代名詞、疑問副詞、否定疑問、進行形、完了形、受動態、不定詞、分子、動名詞など、TOEIC頻出の文法項目・構文を理解し、運用できるようになる。	
		4週	Unit 3	各ユニットの問題演習を通して、 1. TOEICの出題傾向を把握し、出題形式に慣れ、各パートの問題景色に対応できるようになる。 2. 交通、情報案内、指示、説明、飲食、ビジネス、通信・コミュニケーション、社交の各場面におけるTOEIC頻出語彙・表現を理解し、運用できるようになる。 3. 疑問代名詞、疑問副詞、否定疑問、進行形、完了形、受動態、不定詞、分子、動名詞など、TOEIC頻出の文法項目・構文を理解し、運用できるようになる。	
		5週	Unit 4	各ユニットの問題演習を通して、 1. TOEICの出題傾向を把握し、出題形式に慣れ、各パートの問題景色に対応できるようになる。 2. 交通、情報案内、指示、説明、飲食、ビジネス、通信・コミュニケーション、社交の各場面におけるTOEIC頻出語彙・表現を理解し、運用できるようになる。 3. 疑問代名詞、疑問副詞、否定疑問、進行形、完了形、受動態、不定詞、分子、動名詞など、TOEIC頻出の文法項目・構文を理解し、運用できるようになる。	

	6週	Unit 5	各ユニットの問題演習を通して、 1. TOEICの出題傾向を把握し、出題形式に慣れ、各パートの問題景色に対応できるようになる。 2. 交通、情報案内、指示、説明、飲食、ビジネス、通信・コミュニケーション、社交の各場面におけるTOEIC頻出語彙・表現を理解し、運用できるようになる。 3. 疑問代名詞、疑問副詞、否定疑問、進行形、完了形、受動態、不定詞、分子、動名詞など、TOEIC頻出の文法項目・構文を理解し、運用できるようになる。
	7週	Unit 6	各ユニットの問題演習を通して、 1. TOEICの出題傾向を把握し、出題形式に慣れ、各パートの問題景色に対応できるようになる。 2. 交通、情報案内、指示、説明、飲食、ビジネス、通信・コミュニケーション、社交の各場面におけるTOEIC頻出語彙・表現を理解し、運用できるようになる。 3. 疑問代名詞、疑問副詞、否定疑問、進行形、完了形、受動態、不定詞、分子、動名詞など、TOEIC頻出の文法項目・構文を理解し、運用できるようになる。
	8週	まとめと復習	各ユニットの問題演習を通して、 1. TOEICの出題傾向を把握し、出題形式に慣れ、各パートの問題景色に対応できるようになる。 2. 交通、情報案内、指示、説明、飲食、ビジネス、通信・コミュニケーション、社交の各場面におけるTOEIC頻出語彙・表現を理解し、運用できるようになる。 3. 疑問代名詞、疑問副詞、否定疑問、進行形、完了形、受動態、不定詞、分子、動名詞など、TOEIC頻出の文法項目・構文を理解し、運用できるようになる。
2ndQ	9週	前期中間試験	
	10週	Unit 7	各ユニットの問題演習を通して、 1. TOEICの出題傾向を把握し、出題形式に慣れ、各パートの問題景色に対応できるようになる。 2. 招待・案内、医療・保健、文化・娯楽、買い物、運動、トラブル・申請の各場面におけるTOEIC頻出語彙・表現を理解し、運用できるようになる。 3. 副詞、助動詞、接続し、仮定法、分子構文、前置語句など、TOEIC頻出の文法項目・構文を理解し、運用できるようになる。
	11週	Unit 8	各ユニットの問題演習を通して、 1. TOEICの出題傾向を把握し、出題形式に慣れ、各パートの問題景色に対応できるようになる。 2. 招待・案内、医療・保健、文化・娯楽、買い物、運動、トラブル・申請の各場面におけるTOEIC頻出語彙・表現を理解し、運用できるようになる。 3. 副詞、助動詞、接続し、仮定法、分子構文、前置語句など、TOEIC頻出の文法項目・構文を理解し、運用できるようになる。
	12週	Unit 9	各ユニットの問題演習を通して、 1. TOEICの出題傾向を把握し、出題形式に慣れ、各パートの問題景色に対応できるようになる。 2. 招待・案内、医療・保健、文化・娯楽、買い物、運動、トラブル・申請の各場面におけるTOEIC頻出語彙・表現を理解し、運用できるようになる。 3. 副詞、助動詞、接続し、仮定法、分子構文、前置語句など、TOEIC頻出の文法項目・構文を理解し、運用できるようになる。
	13週	Unit 10	各ユニットの問題演習を通して、 1. TOEICの出題傾向を把握し、出題形式に慣れ、各パートの問題景色に対応できるようになる。 2. 招待・案内、医療・保健、文化・娯楽、買い物、運動、トラブル・申請の各場面におけるTOEIC頻出語彙・表現を理解し、運用できるようになる。 3. 副詞、助動詞、接続し、仮定法、分子構文、前置語句など、TOEIC頻出の文法項目・構文を理解し、運用できるようになる。
	14週	Unit 11	各ユニットの問題演習を通して、 1. TOEICの出題傾向を把握し、出題形式に慣れ、各パートの問題景色に対応できるようになる。 2. 招待・案内、医療・保健、文化・娯楽、買い物、運動、トラブル・申請の各場面におけるTOEIC頻出語彙・表現を理解し、運用できるようになる。 3. 副詞、助動詞、接続し、仮定法、分子構文、前置語句など、TOEIC頻出の文法項目・構文を理解し、運用できるようになる。
	15週	Unit 12	各ユニットの問題演習を通して、 1. TOEICの出題傾向を把握し、出題形式に慣れ、各パートの問題景色に対応できるようになる。 2. 招待・案内、医療・保健、文化・娯楽、買い物、運動、トラブル・申請の各場面におけるTOEIC頻出語彙・表現を理解し、運用できるようになる。 3. 副詞、助動詞、接続し、仮定法、分子構文、前置語句など、TOEIC頻出の文法項目・構文を理解し、運用できるようになる。

阿南工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	応用化学
科目基礎情報					
科目番号	0406		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	一般教養		対象学年	4	
開設期	集中		週時間数		
教科書/教材					
担当教員	松尾 俊寛,山田 洋平,園田 昭彦				
到達目標					
<p>化学熱力学：熱力学と統計力学の初歩を学び、とくに化学で重要になる自由エネルギーの扱いに習熟する。 量子化学：量子化学の基礎であるシュレーディンガー方程式について学び、エネルギー固有値を求められることを目標とする。 機器分析：講義で取り扱う分析機器の原理や性能について、記述・説明できるようになることを目標とする。</p>					
ルーブリック					
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	最低限の到達レベルの目安(可)	
化学熱力学		種々の自由エネルギーがどのように定義される量が理解し、数式を用いて公式を説明できる。具体的な問題に対してこれらを用いた計算ができる。	ヘルムホルツ自由エネルギーとギブス自由エネルギーの定義を理解し、それらの違いについて説明できる。自由エネルギーの公式を用いて計算ができる。	ヘルムホルツ自由エネルギーとギブス自由エネルギーの定義を説明できる。	
量子化学		量子化の意味を理解し、さまざまなポテンシャルエネルギーでのエネルギー固有値と波動関数を求めることができる。	井戸型ポテンシャルのシュレーディンガー方程式の解を求めることができる。	1次元の箱の中の自由粒子シュレーディンガー方程式の解を求めることができる。	
機器分析		講義で扱った分析機器の原理と構造、得られる応答について詳細な記述・説明をすることができる。	講義で扱った分析機器の原理と構造、得られる応答について簡単に説明することができる。	講義で扱ったいくつかの分析機器の原理と構造について説明することができる。	
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	広く化学一般の基礎から応用にかけて、担当各教員の専門と興味に基づき講義する。				
授業の進め方・方法	授業は3つのテーマについて5回ずつ行われる。各テーマごとにテストを行う。				
注意点	本講義は集中講義であるが、開講時期は担当教員により異なるので十分に注意すること。				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	熱平衡状態	少数の変数が平衡状態が記述されることとそれらの間に成り立つ法則を学ぶ。	
		2週	等温変化と断熱変化	等温変化と断熱変化で成り立つ法則について理解する。また、熱力学関数としてのエントロピーの扱いに習熟する。	
		3週	ヘルムホルツの自由エネルギー	等温変化の際の最大仕事としてヘルムホルツ自由エネルギーが定義されることを理解し、いくつかの問題に適用する。	
		4週	ギブス自由エネルギー	ギブス自由エネルギーを定義し、その特性を説明できる。自由エネルギーを用いて具体的な問題を解くことができる。	
		5週	確認テスト		
		6週	古典物理学の破たん	古典物理学では説明できない物理現象を学習し、量子化学の必要性について理解する。	
		7週	古典的波動方程式	古典的波動方程式を復習し、シュレーディンガー方程式の導入を行う。	
		8週	シュレーディンガー方程式	シュレーディンガー方程式から解を求めて、粒子の波動関数とエネルギー固有値を求める。	
	2ndQ	9週	シュレーディンガー方程式	シュレーディンガー方程式から解を求めて、粒子の波動関数とエネルギー固有値を求める。	
		10週	確認テスト		
		11週	機器分析の概要	現在の科学技術と機器分析の関係について説明することができる。	
		12週	顕微鏡（光学顕微鏡、電子顕微鏡、走査プローブ顕微鏡）について	各種顕微鏡の構造の簡略図が書け、その原理を説明することができる。	
		13週	紫外・可視分光法	紫外・可視分光法の原理と概要を説明することができる。スペクトルをみて、情報を読み取ることができる。	
		14週	原子分光分析法	原子吸光分析、ICP-AES、ICP-MS分析の概要を説明することができる。	
		15週	確認テスト		
		16週			
後期	3rdQ	1週			
		2週			
		3週			
		4週			
		5週			
		6週			
		7週			

4thQ	8週		
	9週		
	10週		
	11週		
	12週		
	13週		
	14週		
	15週		
	16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
評価割合						
	試験	小スト	ポートフォリオ	発表・取り組み姿勢	その他	合計
総合評価割合	30	30	30	10	0	100
基礎的能力	10	30	30	10	0	80
専門的能力	20	0	0	0	0	20
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0

阿南工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)	授業科目	日本語の表現	
科目基礎情報						
科目番号	0041		科目区分	一般 / 選択		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	一般教養		対象学年	5		
開設期	前期		週時間数	2		
教科書/教材	高専日本語アビリティ I・II (阿南高専)					
担当教員	錦織 浩文, 坪井 泰士					
到達目標						
1. 社会マナー・ルール、敬語・表現ルールの基本を理解し、適切に用いて文章を作成できる。(I) 2. 他者を尊重した議論を集団としてまとめ、新たな発想や視点を獲得し、自分の思いや考えを整理し、深化させる手法を説明できる。(II)						
ルーブリック						
		理想的な到達レベル(優)	標準的な到達レベル(良)	最低限の到達レベルの目安(可)		
到達目標1		社会マナー・ルール、敬語・表現ルールの基本を理解し、適切に用いて文章を即応的に作成できる。	社会マナー・ルール、敬語・表現ルールの基本を理解し、適切に用いて文章を適切に作成できる。	社会マナー・ルール、敬語・表現ルールの基本を理解し、適切に用いて文章を作成できる。		
到達目標2		他者を尊重した議論を集団としてまとめ、新たな発想や視点を獲得し、自分の思いや考えを整理し、深化させる効果的な手法を適切に説明できる。	他者を尊重した議論を集団としてまとめ、新たな発想や視点を獲得し、自分の思いや考えを整理し、深化させる効果的な手法を説明できる。	他者を尊重した議論を集団としてまとめ、新たな発想や視点を獲得し、自分の思いや考えを整理し、深化させる手法を説明できる。		
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	科学技術に関するものを含む広範囲な日本語を対象に、より高度な理解、柔軟な発想・思考、豊かな口頭表現を含む効果的なコミュニケーションや主体的な表現ができることを目的とする。					
授業の進め方・方法	LMSにより、講義VTR視聴(テキストを用いた予習・復習を含む)、レポート提出(教員による添削指導を含む)、チームプロジェクト等を実施する。実授業は、それらの学習理解をふまえて討論、ファシリテーション、実技等により、振り返りを中心とする。 【授業時間30時間+自学自習時間60時間】					
注意点	LMSの活用環境を整備しておくこと。					
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	社会へのエントリー①(坪井)	社会の視点に立ち、面接に必要な準備、マナー等を説明し、実践できる。		
		2週	短歌・俳句(錦織)	短歌・俳句の基本を説明し、作成できる。		
		3週	社会へのエントリー②(坪井)	種別に応じた面接技法(個別、集団、ディスカッション)を説明し、実践できる。		
		4週	短歌・俳句(錦織)	短歌・俳句の基本を説明し、作成できる。		
		5週	社会へのエントリー③(坪井)	社会が求める人材像を想起し、他との差違を意識したコミュニケーションについて説明し、実践できる。		
		6週	短歌・俳句(錦織)	短歌・俳句の基本を説明し、作成できる。		
		7週	ファシリテーション(坪井)	合意形成のためのファシリテーションについて説明し、実践できる。		
		8週	前期中間試験	学習のまとめ		
	2ndQ	9週	人間力①(坪井)	人材評価指標を考察し、説明できる。		
		10週	人間力②(坪井)	リーダーシップとメンバーシップの観点から、組織のあり方を考察し、説明できる。		
		11週	プレゼンテーションと聞く技術(坪井)	ラポール、Show-See-Speak、ペーシングについて説明し、実践できる。		
		12週	敬語(錦織)	敬語の基本を説明し、運用できる。		
		13週	電話・記録(錦織)	電話対応・記録・報告の基本を説明し、運用できる。		
		14週	通信文(錦織)	通信文の基本形について説明し、作成できる。		
		15週	通信文(錦織)	通信文の基本形について説明し、作成できる。		
		16週	前期末試験答案返却	学習のまとめ		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標						
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	人文・社会科学	国語	国語	常用漢字の音訓を正しく使える。主な常用漢字が書ける。	3	前1,前3,前5,前7,前8,前9,前10,前11
				類義語・対義語を思考や表現に活用できる。	3	前3,前5,前8,前9,前10
				実用的な文章(手紙・メール)を、相手や目的に応じた体裁や語句を用いて作成できる。	3	前12,前13,前14,前15,前16
				報告・論文の目的に応じて、印刷物、インターネットから適切な情報を収集できる。	3	前1,前5,前9,前10
				収集した情報を分析し、目的に応じて整理できる。	3	前1,前5,前9,前10

			報告・論文を、整理した情報に基づいて、主張が効果的に伝わるように論理の構成や展開を工夫し、作成することができる。	3	前3,前5,前7,前8,前9,前10,前11
			作成した報告・論文の内容および自分の思いや考えを、的確に口頭発表することができる。	3	前3,前5,前7,前9,前10,前11
			課題に応じ、根拠に基づいて議論できる。	3	前1,前3,前5,前7,前9,前10,前11
			相手の立場や考えを尊重しつつ、議論を通して集団としての思いや考えをまとめることができる。	3	前1,前3,前5,前7,前9,前10,前11
			新たな発想や他者の視点の理解に努め、自分の思いや考えを整理するための手法を実践できる。	3	前1,前3,前5,前7,前9,前10,前11

評価割合

	定期試験	小テスト	ポートフォリオ	発表・取り組み姿勢	その他	合計
総合評価割合	75	0	15	10	0	100
基礎的能力	75	0	5	0	0	80
専門的能力	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	10	10	0	20

阿南工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)	授業科目	体育	
科目基礎情報						
科目番号	0042	科目区分	一般 / 選択			
授業形態	授業	単位の種別と単位数	履修単位: 1			
開設学科	一般教養	対象学年	5			
開設期	前期	週時間数	2			
教科書/教材	なし/なし					
担当教員	新井 修, 中島 一					
到達目標						
1.互いに協力し合い、主体的に練習やゲームの方法を工夫して運動を実践できる。 2.自己の能力に応じて、運動の技能や体力を身につけることができる。 3.安全に留意して運動や活動ができる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベル(優)	標準的な到達レベル(良)	最低限の到達レベル(可)			
到達目標1	自己及び、仲間の取るべき行動を適切に判断し、主体的に練習やゲームを工夫し、活動を円滑に実践できる。	自己の取るべき行動を判断し、他人と互いに協力しながら練習やゲームを工夫し、活動に参加できる。	練習やゲームに参加することができる。			
到達目標2	自己の能力を理解し、適切なプログラムを作成して運動の技能や体力を身につけることができる。	教員が指示したプログラムに従い、運動の技能や体力を身につけることができる。	教員の指示したプログラムに従い、運動の技能や体力を身につける取り組みができる。			
到達目標3	活動中、自己のみならず仲間も安全に留意し、必要に応じて危険を回避する行動を取る事ができる。	活動中、自分の安全に留意し、必要に応じて危険を回避する行動を取ることができる。	教員の指示により、安全に留意することができる。			
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	運動を行うことにより、運動することの楽しさや喜びの実感、運動に必要な技能の習得及び体力の向上を図る。あわせて自ら意欲的に運動に取り組む姿勢や、生涯にわたって運動に親しむ態度を育てる。特に本授業では、生涯スポーツの観点から、自己の能力や興味関心に応じて種目を選択させ、運動を安全かつ楽しみながら実践できるよう、工夫・協力しながら学習することに重点を置く。					
授業の進め方・方法	第1週目に種目を選択・決定し、半期を通じて該当種目を実施する。準備や運営を自主的に行うことで、生涯スポーツの基礎を身につける。 授業時間 30時間					
注意点	普段から健康管理を心がけ、風邪などにより授業を見学・欠席することの無いよう気をつけてください。 学校指定の体操服で活動してください。 天候等、やむを得ない事情により、実施種目は変更されることがあります。 前期の体育大会は授業時数に含まれますので、欠席しないようにして下さい。					
授業計画						
	週	授業内容	週ごとの到達目標			
前期	1stQ	1週	種目選択と実践	(1)各種目のルールを理解し説明できる。		
		2週	種目選択と実践	(2)各種目の基本的な個人技能を習得する。		
		3週	種目選択と実践	(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。		
		4週	種目選択と実践	(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。		
		5週	種目選択と実践	(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。		
		6週	種目選択と実践	(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。		
		7週	種目選択と実践	(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。		
		8週	種目選択と実践	(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。		
	2ndQ	9週	種目選択と実践	(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。		
		10週	種目選択と実践	(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。		
		11週	種目選択と実践	(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。		
		12週	種目選択と実践	(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。		
		13週	体育大会(前期)	(1)参加する種目で、仲間と協力してゲームを実践できる。		
		14週	体育大会(前期)	(1)参加する種目で、仲間と協力してゲームを実践できる。		
		15週	体育大会(前期)	(1)参加する種目で、仲間と協力してゲームを実践できる。		
		16週				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標						
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
評価割合						
	定期試験	小テスト	ポートフォリオ	発表・取り組み姿勢	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	100	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	100	100

阿南工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)	授業科目	英語総合2	
科目基礎情報						
科目番号	0043		科目区分	一般 / 選択		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	一般教養		対象学年	5		
開設期	前期		週時間数	2		
教科書/教材	AFP World Focus—Environment, Health, and Technology—, Makoto SHISHIDO, Seibido					
担当教員	谷中 俊裕, 林田 栄治					
到達目標						
<ol style="list-style-type: none"> 1. 教材(DVD及び英文エッセイ)で用いられている英語の語彙・語法を習得する。 2. 英語DVDを視聴し、その概要を正確に理解できる。 3. 英文エッセイを読んで、その概要を正確に理解できる。 4. 英語でのプレゼンテーションの形式を理解し作成できる。 5. 英語でのディベートの形式や表現を理解し、ディベートでの発話を作文できる。 						
ループリック						
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	最低限の到達レベルの目安			
評価項目1	教材で扱われた語彙・語法を教材以外の類似の文脈でも理解できし、自らの英作文や発話に応用できる。	教材で扱われた語彙・語法を教材以外の類似の文脈の中で正しく理解できる。	教材で扱われた語彙・語法を教材中では正しく理解できる。			
評価項目2	5分程度の英語DVDを視聴し、その概要を正確に理解し、要点をまとめることができる。	5分程度の英語DVDを視聴し、その概要を正確に理解し、英文での質問に英語の短文で答えることができる。	5分程度の英語DVDを視聴し、その概要を正確に理解し、選択肢のある英語での質問に答えることができる。			
評価項目3	400語程度の英文エッセイを読んで、その概要を正確に理解し、要点をまとめることができる。	400語程度の英文エッセイを読んで、その概要を正確に理解し、英文での質問に英語の短文で答えることができる。	400語程度の英文エッセイを読んで、その概要を正確に理解し、選択肢のある英語での質問に答えることができる。			
評価項目4	発表台本のノート欄を備え、聴衆の理解を助ける魅力的な画像を多く含む英語でのプレゼンテーションを作成できる。	発表台本のノート欄を備え、聴衆の理解を助ける最低限の画像を含む英語でのプレゼンテーションを作成できる。	発表台本のノート欄を備えた英語でのプレゼンテーションを作成できる。			
評価項目5	英語でのディベートの構成やディベート特有の表現を理解し、ディベート用の英文を作文でき、口頭でも発話できる。	英語でのディベートの構成やディベート特有の表現を理解し、ディベート用の英文を作文できる。	英語でのディベートの構成やディベート特有の表現を理解できる。			
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	環境・健康・科学技術などの題材を取り上げた英語DVDを視聴しながら聴解演習し、併せて関連エッセイを読解演習する。その過程でポピュラーサイエンス分野特有の語彙・語法に慣れる。また、これらの語彙や語法も利用しながら、自ら調べた内容も補足して、学習分野に関連した英文のプレゼンテーションを作成する。その際には、ディベートを想定した対立する2つの見方を盛り込み、ディベート形式の思考訓練をする。授業時間30時間、自学自習時間60時間					
授業の進め方・方法	予習では、重要語句をチェックしながらDVDを視聴しておく。復習では、同じように重要語句をチェックしながら関連分野のエッセイを読んでおく。予習復習は自学自習ノートに記入しておく。授業中は、教科書の設問を利用しながら、復習として学習したエッセイの読解演習、予習しておいた新しい章の聴解演習を行い、語法のキーポイントを確認する。ディベートを想定した内容を盛り込んだ英文プレゼンテーションの作成は、グループ学習によって自学自習の一部として行う。					
注意点	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教科書付録のDVDを視聴できる環境を準備してください。 2. 授業には必ず辞書を持参してください。 3. 【重要】自学自習用にノートを1冊用意してください。ルーズリーフ及びリングノートは認めません。 4. 予習・復習に必要な語彙のヒントをmanabaに掲載します。プレゼンテーションの提出もmanabaを通して行うので、manabaにアクセスできる環境を準備してください。 					
授業計画						
	週	授業内容	週ごとの到達目標			
前期	1stQ	1週	オリエンテーション	シラバスの内容を理解する。		
		2週	L1 Global Warming and Climate Change	L1 聴解演習 語彙・語法の理解と作文への応用		
		3週	L1 Global Warming and Climate Change L2 Diet and Health for Long Lives	L1 読解演習 L2 聴解演習 語彙・語法の理解と作文への応用		
		4週	L2 Diet and Health for Long Lives L3 Self-Driving for the Future	L2 読解演習 L3 聴解演習 語彙・語法の理解と作文への応用		
		5週	L3 Self-Driving for the Future L5 3D Printers for Creating Body Parts	L3 読解演習 L5 聴解演習 語彙・語法の理解と作文への応用		
		6週	L5 3D Printers for Creating Body Parts 英文プレゼンテーションについて	L5 読解演習 語彙・語法の理解と作文への応用 英文プレゼン作成のポイント理解		
		7週	L1, 2, 3, 5復習 語彙テスト	L1, 2, 3, 5の語彙・語法の確認		
		8週	前期中間試験			
	2ndQ	9週	前期中間試験反省 L8 Practical Uses of Drones	L8 読解演習 語彙・語法の理解と作文への応用		
		10週	L8 Practical Uses of Drones L9 Garbage Problems	L8 読解演習 L9 聴解演習 語彙・語法の理解と作文への応用		
		11週	L9 Garbage Problems L11 Virtual Reality for Therapy and Treatment	L9 読解演習 L11 聴解演習 語彙・語法の理解と作文への応用		
		12週	L11 Virtual Reality for Therapy and Treatment L13 Health Check	L11 読解演習 L13 聴解演習 語彙・語法の理解と作文への応用		

		13週	L13 Health Check 英語でのディベートについて	L13 読解演習 語彙・語法の理解と作文への応用 英語でのディベートのポイント理解
		14週	L8, 9, 11, 13復習 語彙カテスト	L8, 9, 11, 13の語彙・語法の確認
		15週	前期末試験	
		16週	前期末試験答案返却	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	英語	英語運用の基礎となる知識	聞き手に伝わるよう、句・文における基本的なリズムやイントネーション、音のつながりに配慮して、音読あるいは発話できる。	3	前2,前3,前4,前5,前9,前10,前11,前12
				明瞭で聞き手に伝わるような発話ができるよう、英語の発音・アクセントの規則を習得して適切に運用できる。	3	前2,前3,前4,前5,前9,前10,前11,前12
				中学で既習の語彙の定着を図り、高等学校学習指導要領に準じた新出語彙、及び専門教育に必要な英語専門用語を習得して適切な運用ができる。	3	前2,前3,前4,前5,前6,前7,前9,前10,前11,前12,前13,前14
				中学で既習の文法や文構造に加え、高等学校学習指導要領に準じた文法や文構造を習得して適切に運用できる。	3	前2,前3,前4,前5,前6,前7,前9,前10,前11,前12,前13,前14
			英語運用能力の基礎固め	日常生活や身近な話題に関して、毎分100語程度の速度ではっきりとした発音で話された内容から必要な情報を聞きとることができる。	3	前2,前3,前4,前5,前6,前9,前10,前11,前12,前13
				日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を基本的な表現を用いて英語で話すことができる。	3	前2,前3,前4,前5,前6,前9,前10,前11,前12,前13
				平易な英語で書かれた文章を読み、その概要を把握し必要な情報を読み取ることができる。	3	前2,前3,前4,前5,前6,前9,前10,前11,前12,前13
				日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を整理し、100語程度のまとまりのある文章を英語で書くことができる。	3	前2,前3,前4,前5,前6,前9,前10,前11,前12,前13
		母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、実際の場面で積極的にコミュニケーションを図ることができる。		3	前6,前13	
		実際の場面や目的に応じて、基本的なコミュニケーション方略(ジェスチャー、アイコンタクト)を適切に用いることができる。		3	前6,前13	
		英語運用能力向上のための学習		自分の専門分野などの予備知識のある内容や関心のある事柄に関する報告や対話などを毎分120語程度の速度で聞いて、概要を把握し、情報を聞き取ることができる。	3	前2,前3,前4,前5,前6,前9,前10,前11,前12
				英語でのディスカッション(必要に応じてディベート)を想定して、教室内でのやり取りや教室外での日常的な質問や応答などができる。	3	前2,前3,前4,前5,前6,前9,前10,前11,前12
			英語でディスカッション(必要に応じてディベート)を行うため、学生自ら準備活動や情報収集を行い、主体的な態度で行動できる。	3	前6,前13	
			母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、教室内外で英語で円滑なコミュニケーションをとることができる。	3	前2,前3,前4,前5,前6,前9,前10,前11,前12,前13	
			関心のあるトピックについて、200語程度の文章をパラグラフライティングなど論理的文章の構成に留意して書くことができる。	3	前6,前13	
			関心のあるトピックや自分の専門分野のプレゼン等にもつながる平易な英語での口頭発表や、内容に関する簡単な質問や応答などのやりとりができる。	3	前2,前3,前4,前5,前6,前9,前10,前11,前12,前13	
			関心のあるトピックや自分の専門分野に関する論文やマニュアルなどの概要を把握し、必要な情報を読み取ることができる。	3	前2,前3,前4,前5,前6,前9,前10,前11,前12,前13	

			英文資料を、自分の専門分野に関する論文の英文アブストラクトや口頭発表用の資料等の作成にもつながるよう、英文テクニカルライティングにおける基礎的な語彙や表現を使って書くことができる。	3	前6,前13
			実際の場面や目的に応じて、効果的なコミュニケーション方略(ジェスチャー、アイコンタクト、代用表現、聞き返しなど)を適切に用いることができる。	3	前6,前13

評価割合

	定期試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	小テスト	合計
総合評価割合	50	20	0	0	20	10	100
基礎的能力	50	20	0	0	20	10	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

阿南工業高等専門学校		開講年度	平成30年度(2018年度)	授業科目	中国語	
科目基礎情報						
科目番号	0045	科目区分	一般 / 選択			
授業形態	授業	単位の種別と単位数	履修単位: 1			
開設学科	一般教養	対象学年	5			
開設期	後期	週時間数	2			
教科書/教材	1年生のコミュニケーション中国語 (白水社)					
担当教員	趙 彤					
到達目標						
1.中国の文化と生活に関する基礎的な知識を理解し、最新の中国事情を知る。 2.中国語の発音と基本な文法を理解し、基礎的な日常会話ができる。						
ループリック						
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	最低限の到達レベルの目安(可)			
評価項目1	中国語の社会事情、文化、生活に関することについて興味を持ち、理解できる。	中国の社会事情、文化、生活に関することについてある程度理解できる。	中国の社会事情、文化、生活に関することについて最低限理解できる。			
評価項目2	発音記号を見て、中国語を正しく発音できる。	発音記号を見て、中国語を発音できる。	発音記号を見て、ある程度中国語を発音できる。			
評価項目3	簡単な日常会話が流暢にできる。	簡単な日常会話ができる。	一部の簡単な日常会話ができる。			
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	中国の社会事情、生活・文化に関する基礎的な知識を理解するとともに、中国語の発音と表現に関する基礎知識、及び基礎的な会話を学習する。中国の最新の経済発展を授業の所々に紹介し、等身大の中国を理解する。					
授業の進め方・方法	授業は会話に関する学習と練習を基本とする。 【授業時間30時間】					
注意点	外国語の勉強がしゃべることが大事なので、授業中、積極的な態度で声を出すこと。					
授業計画						
	週	授業内容	週ごとの到達目標			
後期	3rdQ	1週	ガイダンスとオリエンテーション	シラバスにより到達目標、評価割合、達成度基準などを理解する。中国の社会事情、文化・生活、中国語の基本に関することを理解する。		
		2週	中国語の基礎：発音(母音)	発音記号と四声を使って、中国語の発音ができる。		
		3週	中国語の基礎：発音(子音)	発音記号と四声を使って、中国語の発音ができる。		
		4週	自己紹介	「～は～である」を使って会話ができる。		
		5週	これは何ですか	疑問文に関する会話ができる。		
		6週	これはいかがですか	指示代名詞と動詞を使える。		
		7週	買い物	形容詞、量詞の使い方が分かる。		
		8週	中間試験			
	4thQ	9週	どこにありますか	数字、日付、時刻の表現ができる。		
		10週	なにがありますか	完了形を使える。		
		11週	ホテルにチェックイン	存在を表す動詞を使って会話ができる。		
		12週	何時にいきますか	時間量に関する言葉の使い方を習得する。		
		13週	タクシーに乗る	過去の経験に関する文法を習得する。		
		14週	試着と支払い	動作の様態を理解する。		
		15週	苦情をうたえる	動作の進行を表す表現を習得する。		
		16週	試験	試験		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標						
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
評価割合						
	定期試験	小テスト	レポート・課題	発表	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	20	100
基礎的能力	80	0	0	0	20	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0

阿南工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)	授業科目	ドイツ語	
科目基礎情報						
科目番号	0046		科目区分	一般 / 選択		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	一般教養		対象学年	5		
開設期	後期		週時間数	2		
教科書/教材	ドイツ語の時間 <恋するベルリン> Web改訂版 エピローグ付 (朝日出版社)					
担当教員	城本 春佳					
到達目標						
ドイツ語の発音規則、初級文法を学び、挨拶や自己紹介など、簡単な日常会話ができるようになる。また、ドイツ語の学習を通して、異文化理解や外国語習得の有用性を理解する。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	最低限の到達レベル(可)			
到達目標1	ドイツ語の発音規則に習熟し、始めて見る単語も正しく発音できる	ドイツ語の発音規則を習得し、既習の単語を正しく発音できる	ドイツ語のアルファベットを正しく読み、頻出単語を正しく発音できる			
到達目標2	既習の会話表現を応用して、ドイツ語での会話を創造することができる	既習の会話表現を用いて、ドイツ語で会話をすることができる	既習の会話表現のうち頻出の表現を用いて簡単なあいさつや自己紹介等ができる			
到達目標3	既習の文法知識を応用して、簡単なドイツ語の文章を読むことができる	既習の文法規則を理解し、教科書の文章が正確に読める	既習の文法知識を用いて、教科書の文章が概ね理解できる			
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	ドイツ語の初級教科書を用いて、発音練習、聴き取り練習、文法演習、読解演習、会話練習を行う。					
授業の進め方・方法	毎回1課ずつのペースで進むので、次に習う課の新出単語の意味を予習してくる。授業中には、発音・会話練習、文法演習を中心に行う。毎回復習用課題を課す。					
注意点	授業中の発音・会話練習には積極的に取り組むこと。毎回習う単語をしっかり覚えていくこと。復習用課題に真剣に取り組む、分からないところは質問すること。					
授業計画						
	週	授業内容	週ごとの到達目標			
後期	3rdQ	1週	ドイツ語のアルファベット発音規則	ドイツ語のアルファベットが読めるようになる 発音規則を理解し、初見の単語を正しく発音できる		
		2週	動詞の位置と現在人称変化	自己紹介・他己紹介ができる		
		3週	名詞の性と格変化	相手の持ち物について尋ねることができる		
		4週	不規則動詞の現在人称変化 名詞の複数形	自国の紹介をすることができる		
		5週	前置詞と名詞の格	一週間の予定を話すことができる		
		6週	再帰代名詞と再帰動詞	病院で症状を伝えることができる		
		7週	定冠詞・不定冠詞・否定冠詞	住居の説明ができる		
		8週	中間試験			
	4thQ	9週	zu不定詞句	一日の予定を話すことができる		
		10週	分詞動詞	相手に一日の予定を尋ねることができる		
		11週	話法の助動詞	相手に休みの予定を尋ねることができる		
		12週	過去形・現在完了形・受動態	相手に昨日何をしたか尋ねることができる		
		13週	形容詞の格変化、比較級と最上級	相手に好みを尋ねることができる		
		14週	関係代名詞、命令形	自分の部屋に何があるか説明することができる		
		15週	接続法	仮定の話をするすることができる		
		16週	期末テスト返却			
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標						
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
評価割合						
	定期試験	小テスト	ポートフォリオ	発表・取り組み姿勢	その他	合計
総合評価割合	60	30	0	10	0	100
基礎的能力	60	30	0	10	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0